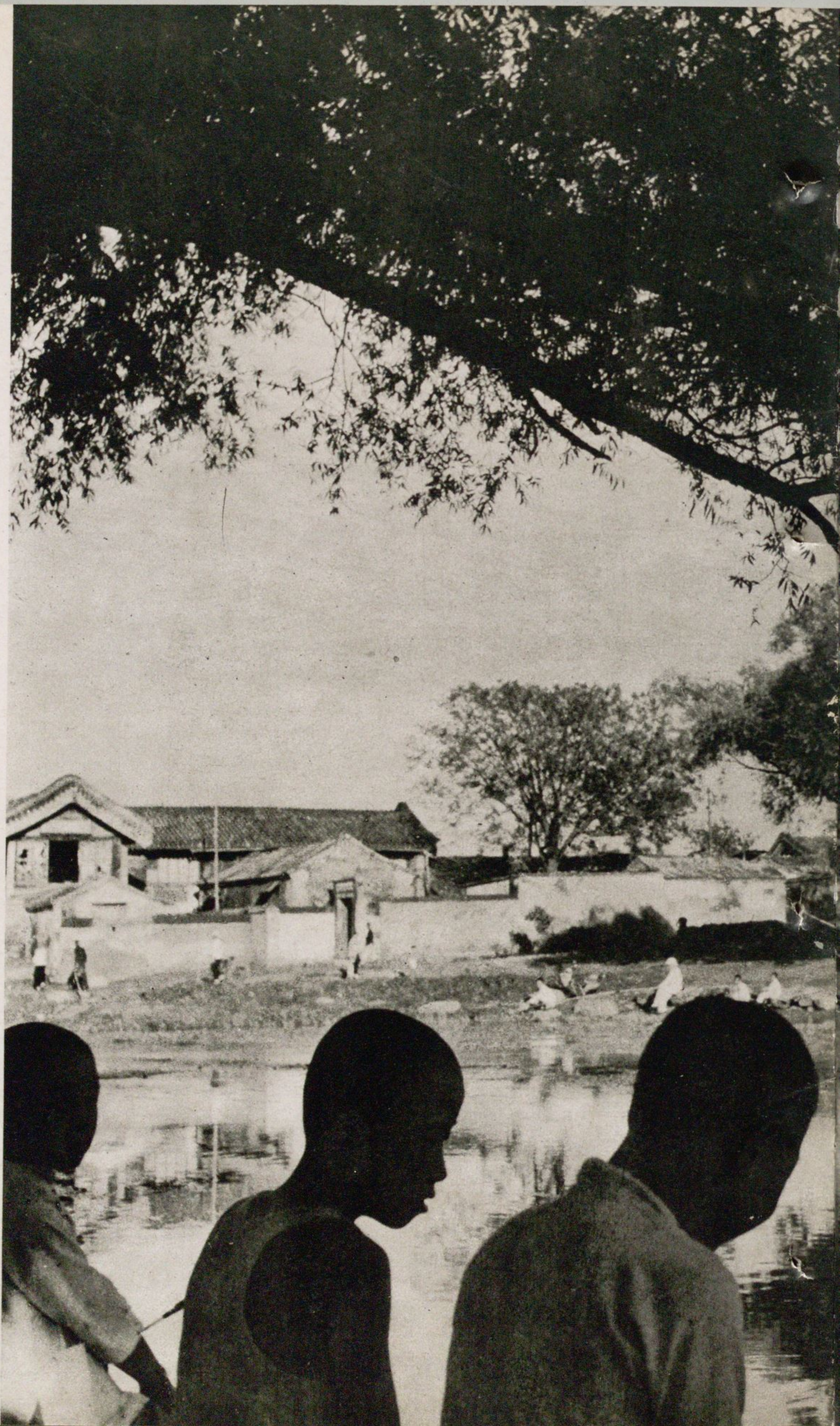
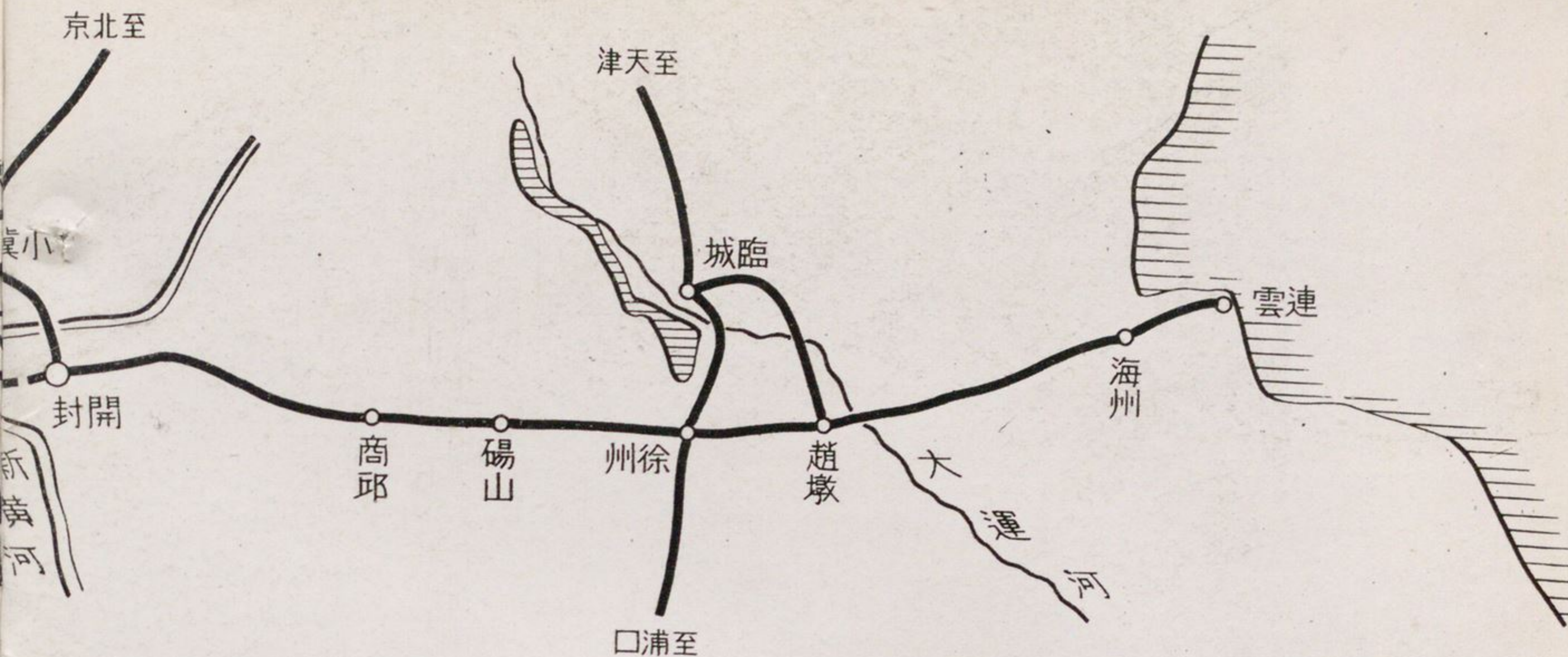
昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十六年六月十五日印刷納本
昭和十六年七月一日發行（毎月一回一日發行）第二十六號

現地編輯

THE NORTH CHINA

3
7

釣

北京西郊、鯉、鮒、鱷などがざらにかかる、
時々すつぽんも釣れる

Fishing in
Peking Suburbs

中原横斷

隴海線 1

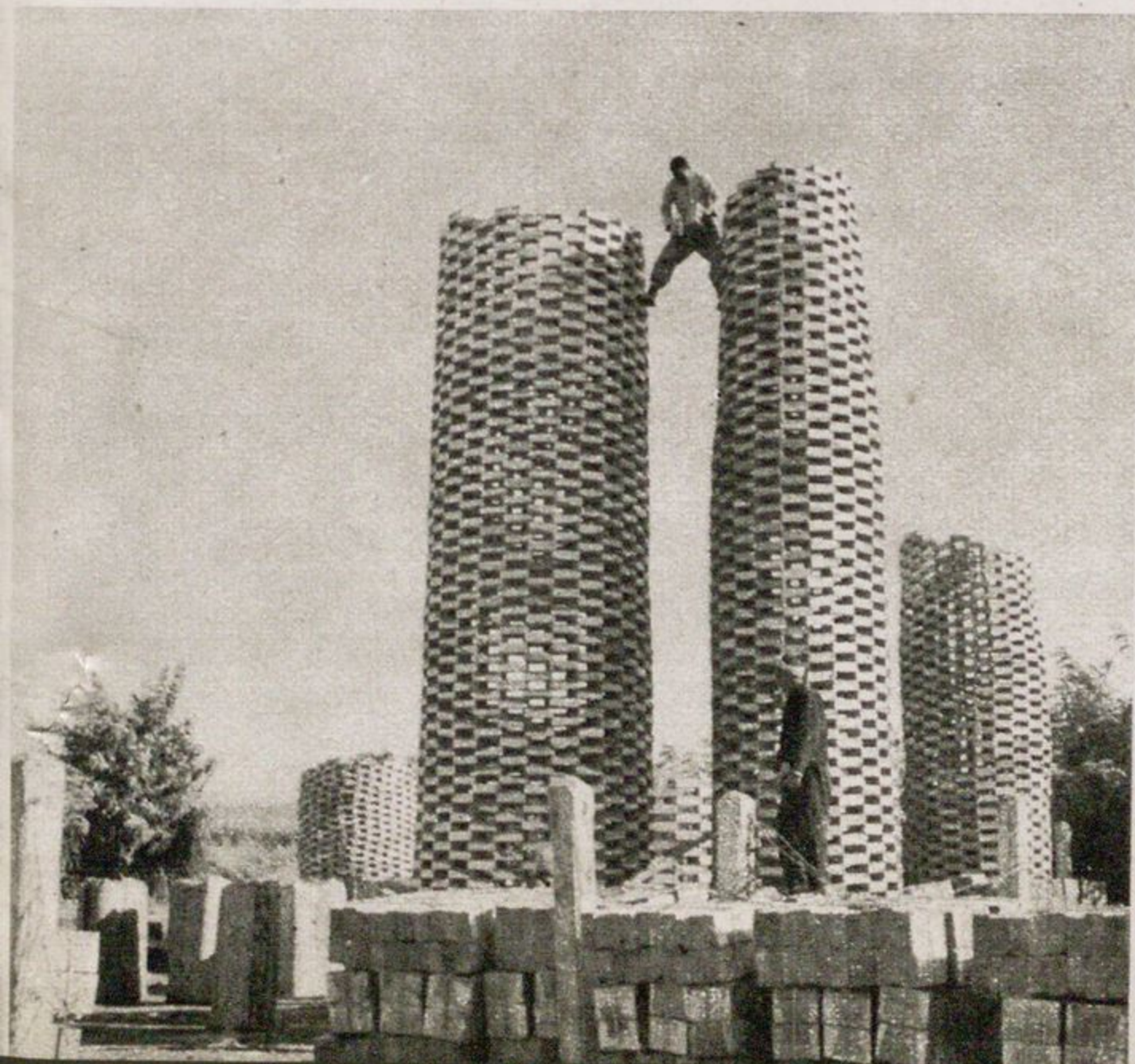
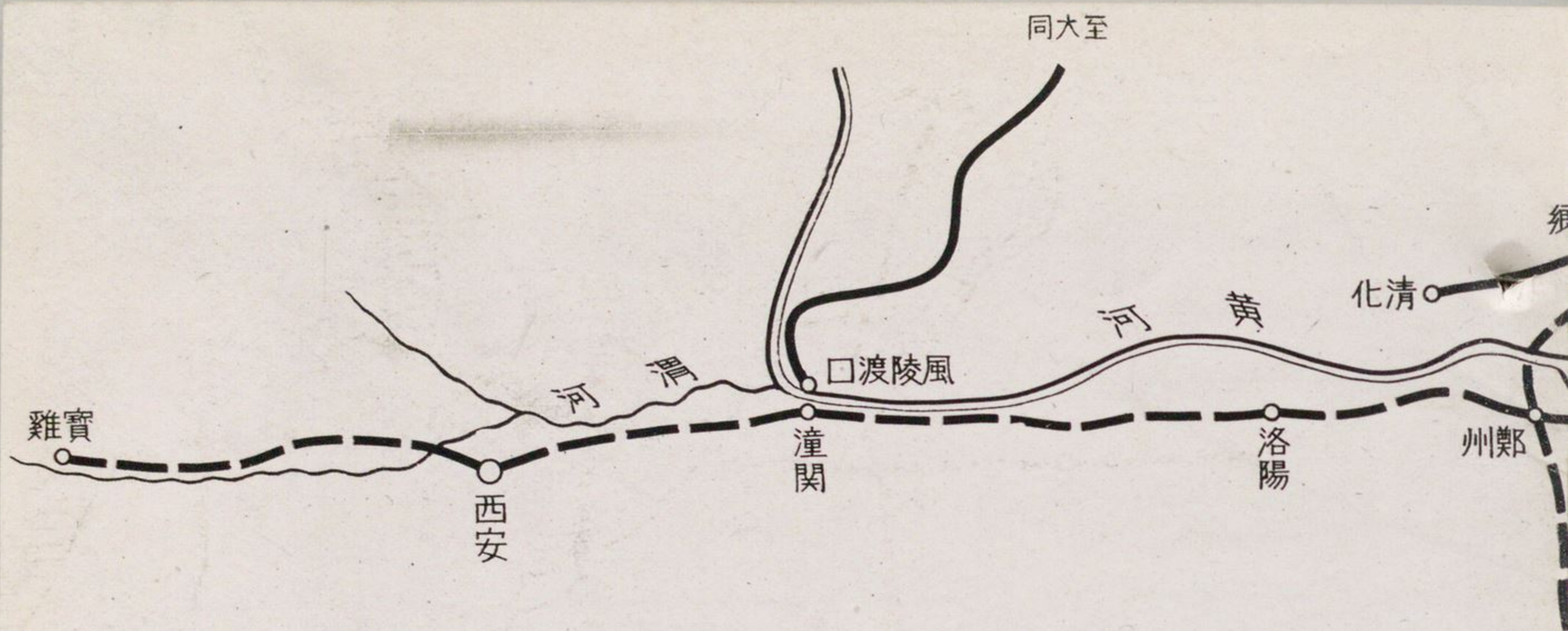
Through the Car Window on the Lung-Hai Line

隴海線は北支・蒙疆を東西に横貫する京包線に對し、支那中部卽ち中原の穀倉地帶を横斷する唯一の鐵道である。開發西北なる舊國民政府のスローガンのもとに蘭州を目的地とする二つの邊疆開拓鐵路が計畫された。京包線と隴海線とがそれであり、その何れもが未完成に終つてゐる

隴海線は隴秦豫海鐵路の略稱である。その豫定線は現在の西端驛、寶雞より更に西に渭水を溯り、漢、唐以來の歷史的大道と一致する。この未完成部分は、事變後急速に自動車道路が構築され、甘肅新疆自動車道路として援蔣赤色ルートの幹線と化した

現在の隴海線の通過地帶は、中原と關中である。古來農業を以て基本とする支那社會の心臟部＝穀倉地帶が中原であり、耕地化の程度も八〇餘％に及び

日本向け桐下駄材に風を通す・開封

海州の鹽積出し

棉花、小麥、落花生等産額も多く、北支その他への移出も多い。この特色は鐵道輸送貨物の上にも反映して居り、北支諸線の何れもが六〇％以上の貨物を石炭で滿たしてゐるに對して、本線のそれは二〇％餘、農業品がこれに代つて四〇％を占めてゐる。かく穀倉地帶なるが故に古來支那經濟の中心・政治の中心として成長し、歴朝抗爭の中心地でもあつた。農産支配を繞る支那社會の歴代の英雄達、現代の軍閥は均しくこの地に注目し、微妙な勢力爭を續けてゐる。最近における新四軍を繞る國共爭鬪も原因の一つはここに在つた。穀倉地帶もこのやうな社會的動亂の繰返の中に匪賊、流民、乞食等の産地としても知られてゐる。支那民族資本の地盤として支那農村經濟の發達を意圖する合作社運動は上述せる社會的矛盾の解決策であり、共産黨對策として採用され、河南省では民國二〇年より二四年に至る間に三社（一二三名）より一、七六一社（一〇〇、三二四名）にと激增した。隴海線西部は支那共産軍の根據地である。隴海線の輸送農産物の主要仕向地は上海、漢口方面である。積出された原料品と交替に上海や漢口から生産品が送られて來る。かくて隴海線もまた支那一般と同樣に國際資本の支配下にあつた。かかる中支港灣都市への依存性離脱、民衆生活安定化への聖戰の性格が想はれよう。五月初旬以來開封以西の隴海線を中心として皇軍の大規模な掃蕩戰がつづけられてゐる

徐州市街

數萬の農民は皇軍に協力して二百二十キロにわたる新黄河の敵前築堤工事に努力してゐる、これが完成すれば穀倉たる河南・安徽の大平原は永年の水禍から救はれるのである

開封馬道街

中原横斷

隴海線 2

隴海線沿線は農業の國支那に於ても特に穀倉地帯と呼ばれ、最も早く開發が進み、經濟的中心をなし、從つて政治の中心となり、多くの都邑が發達し、中原と稱して歴代の首都は多くこの地帶に奠められるを例とした。斯様に早くより支那に於ける最重要地として注目された結果として歴代群雄の爭覇戰の中心ともなり、破壞や混亂をも屢〻經て戰跡や文化的遺跡は極めて多い。秦、漢は長安（西安）に都し、漢の光武帝や、後魏の孝文帝は洛陽を都とした。また開封は北宋百六十年間の都であり、潼關、函谷關は天險の地として有名であり、古來無數の攻防戰が繰返された戰場である。特に北宋の首都開封は、前朝に比し中央集權の著しく進んだ國の首都としてその繁昌振りも獨特であり、北宋以前に較べれば交通や商業の發達もまた顯著であり、殆ど官吏と農民だけが支那社會の成員であつた様な前朝迄に較べれば商人達の勢力が急に盛んになつたので都の氣風も自ら非常に平民的となり、諸文化の繁榮も亦皇帝と官僚以外に富める市民を中心として成立したと言はれてゐる。しかしかかる繁榮も、宋末、遼、金、

開封靑龍背湖

元と打ち續く北敵の襲擊に破壞され、淸末よりは各國の勢力が開港場を中心に發展し、古い支那の穀倉地帶も列强資本の收奪下に疲弊の一路を辿らざるを得なかつた。加ふるに各國資本をそれぞれの背景とする軍閥は屢〻農地を戰場と化し、開封を始め洛陽、西安等と言ふ歷史の都は文字通り古い文化の跡と昔日繁榮の名のみを止めて漸次衰亡を辿るに至つた。新らしく列强資本の投資によつて建設されたる鐵道の要衝には新興商業都市が生じた。これらの新興都市に於ては穀倉地帶の生產物が集散され、近代的な製粉や紡績業も發達し、農村と開港場とを結ぶ經濟上の中心都市にと發達した。徐州は津浦線と隴海線との交叉點、鄭州は京漢線と隴海線との交叉點に當る。二都とも鐵道の開通に依り急速に發展した都市である。要するに西歐產業革命の波が古い支那を搖り動かし、古きもの、新らしきものの交替が起つた。人口統計を以てこの間の推移をみて置かう。開封は一一〇二年頃約一四〇萬人と記されてゐるが、一九〇六年には二〇萬、一九一六年には一五萬にと減じて居り西安は一九〇六年に百萬の人口が一九二六年には二〇萬、一九二八年には一〇萬にと激減してゐる。これに反して徐州は一九二八年一二萬五千人、鄭州は一九三一年頃に於て約二〇萬にと夫夫急速に膨脹した

開封の鐵塔

The Iron Tower of Kaifeng

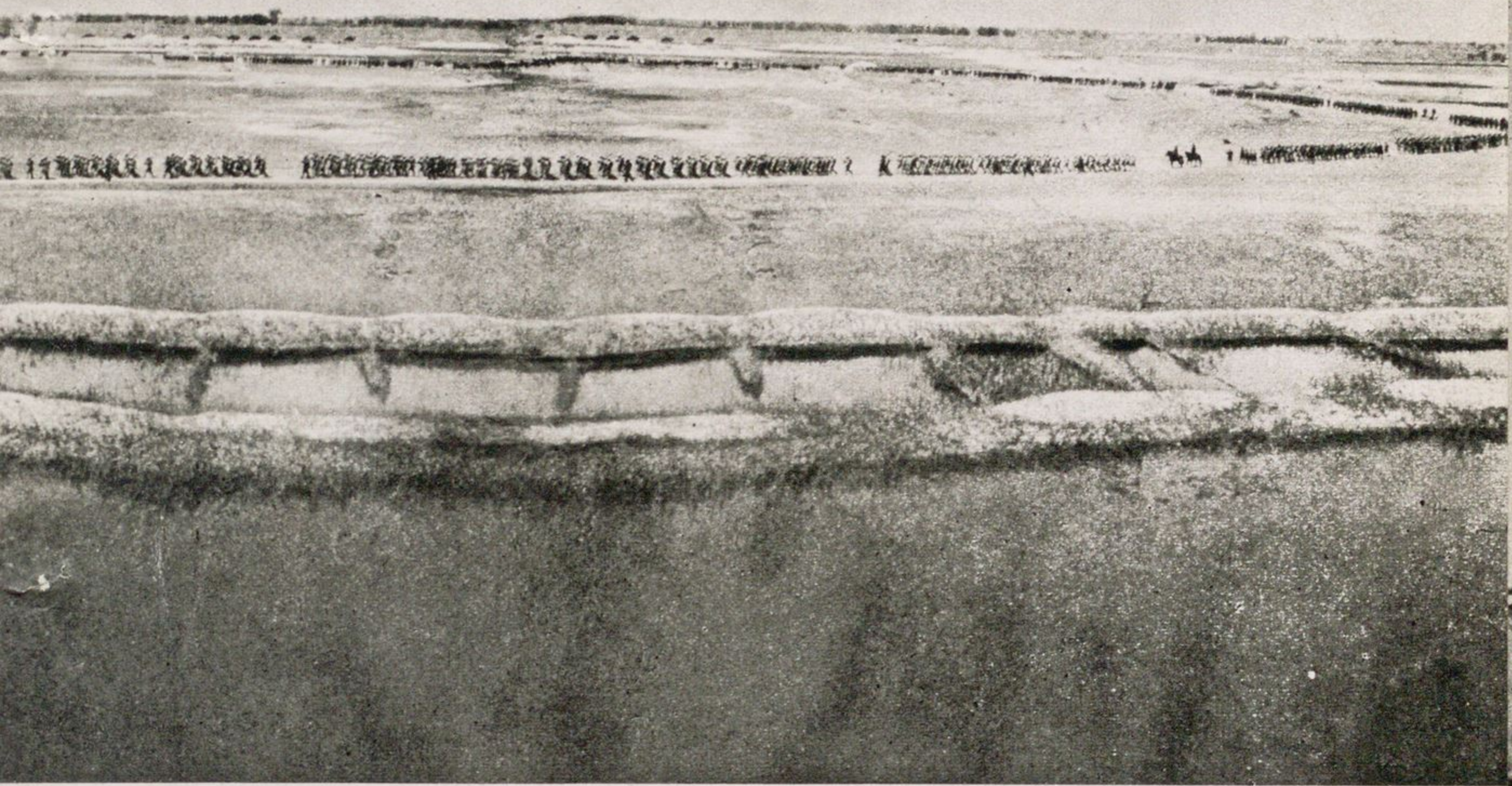
この塔は開封の城内東北隅に建ち、もと祐國寺に屬してゐたが、寺は既に廢されて、唯だこれのみが高く聳えて居る。八角十三層、高さ約七十米許り、基壇は恐らく土中に埋沒して居るのであらう。恰も塔身が地表から生えて居る樣で甚だ不安定だ

屋根は勿論、各層の棰、斗栱、或は壁面に至る迄悉く琉璃瓦を用ひ、黄、褐、綠等の色彩は少し離れて望むと、ほんたうに鐵の樣に見える。鐵塔の俗稱の生れた所以であらう。窓が穿たれ、龕を造り、或は佛像や花模樣などが現され頗る贅をつくした建築である

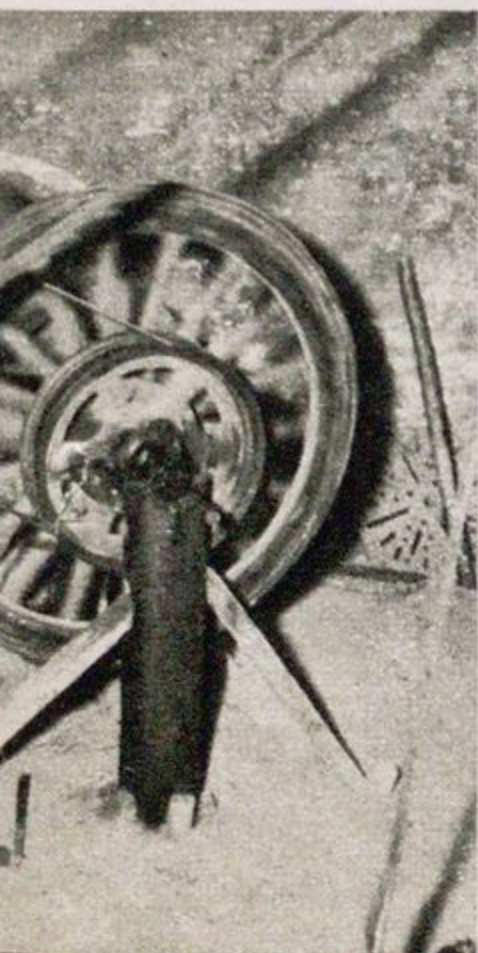
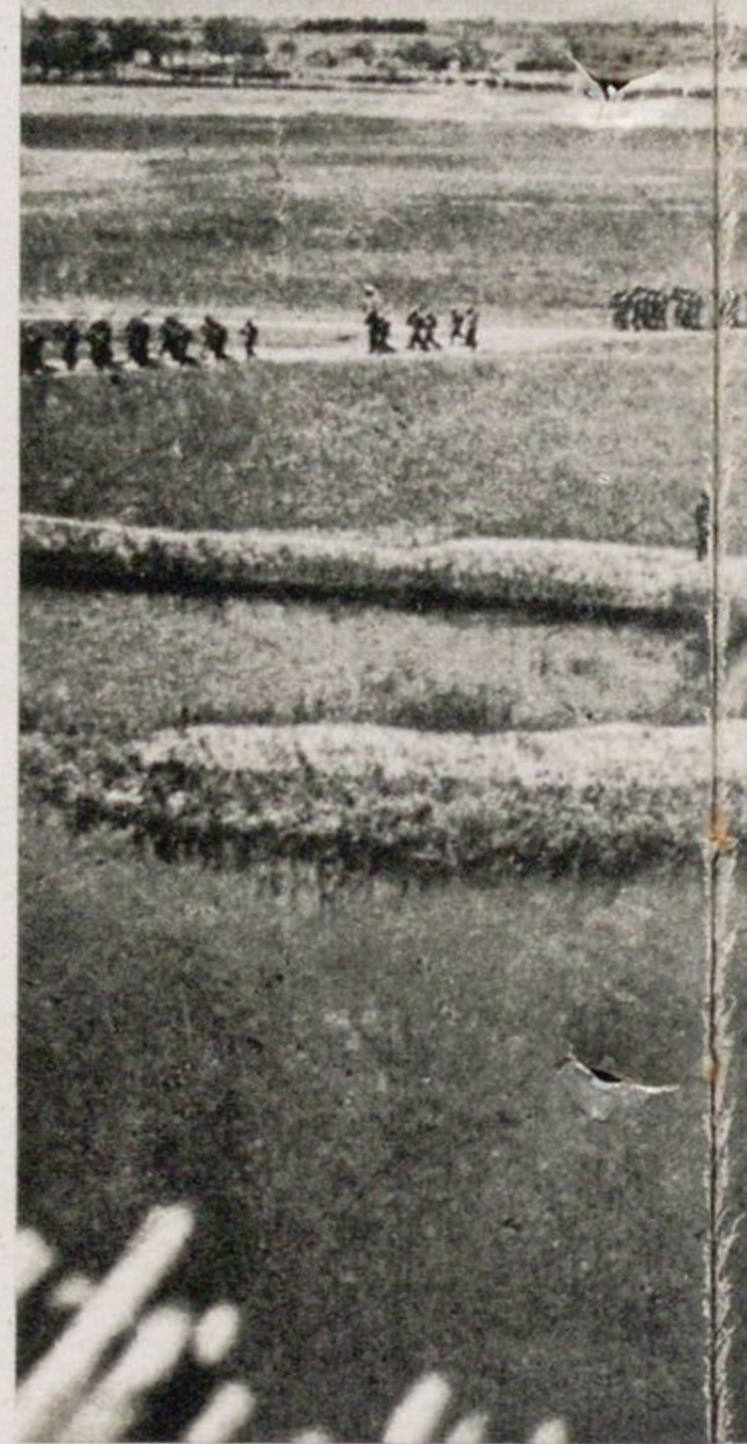
寺名祐國は明代以降で、宋代には等覺禪院とか上方寺と稱した。昔、この寺の西方に開寶寺といふ古刹があり、そこにも亦名塔があつたが仁宗の慶曆四年（一〇四四）に燬けた。その代りに改めてこの佛塔を建てたのだといふ。惟ふに、開封は水陸交通の要衝で、戰國時代早くも梁都として知られ、降つて五代の後梁、更に北宋の帝京として繁華を極めた。然しその後屢〻兵燹を蒙つたり、黄河氾濫に依る水害に見舞はれたりして史蹟の湮滅甚だしく、今日この地を訪ふ者をして、さうした方面に於ては索莫を感ぜしめる。然し幸に殘つたこの鐵塔や城外の繁塔の如きに依り、往時の豪華な文物を僅かながらも偲ばしめ得るのである

Peace and Reconstruction Army in North China

和平救國軍

突擊演習

和平救國軍 2

寫眞は昨春結成された歸德（商邱）の和平救國軍の、颯爽たる姿である。この和平救國軍は故吳佩孚將軍と皇軍との、密接なる連繫のもとに結成されたいはゆる綏靖遊擊軍が、その前身なのである。したがつて志すところ日華協力の東亞共榮圈の理想境建設にあり、華北一帶の明朗化にある。現在の總司令は胡毓坤氏で、張峯嵐氏も樞要な位置にある。兵員は目下のところ〇萬あり、小銃、拳銃、手榴彈等の製作をはじめ、兵器や軍靴などの修理製作等、獨自なしかも立派な兵器廠まで有し、それも各自の手で個々別々に製作され服裝、給與なども能く行屆いてをるので、その士氣並に戰鬪力は極めて旺盛である

この和平救國軍が今度日本軍にかはり歸德から移動して、これから冀東地區の治安强化につとめようといふのである。彼等の意氣、もつて冀東の天地に春風を招來し得るものと期待されてゐる

張嵐峯軍隊旗・歸德（商邱）城外

河南平野を行軍

Peace and Reconstruction
Army in North China

人の動力で兵器を作る

蓮の葉に蠟燭を點けて中元節を迎へる

北京北海の燈籠流し、紙製の蓮の花に火を點して流す

中元節

小臺露坐月東生ニス
松影參差酒數行ヲ
且向ニ今宵一邀ニ一醉一
中秋未レ可レ定ニ陰晴一

清の張光啓の詩にこんなのがありますが中元のお月様を眺めて中秋のことまで心配するのは暢氣なものです。けれども舊のお盆は晩夏の疲れが見え、眼をつむると故鄕の盆提灯がチラチラとノスタルヂアに誘はれます。あの浴衣を着て墓詣りする夕方の虚無感は子供心にも浸みると見え、正月の樂しさとは趣が違ふのです。簡素な日本の提灯に較べると支那のは例によつて手のこんだ色彩の強いものが多く殊に北京は行事も派手に行はれます。お盆前の北京の街頭を飾る景物は蓮花燈で、粗末なものながら美しいものです

文獻を見るとお盆の夜に子供達が蓮の葉に灯をともして唄をうたひながら馳廻ると書いてあるので、それは昔の事で今はないだらうと思つてゐたら、去年のお盆に北海の放河燈——燈籠流を見物に行つた時木立の中を通るのを見ました

蓮花燈（レンホアトン）
蓮花燈
今日はともして　明日捨てる

阿羅漢圖　吳彬筆

A Masterpiece by Wu Pin, Famous Chinese Painter

この圖は、明代の佛畫家吳彬筆、阿羅漢圖卷中の一圖である。現に北京、張某氏の所藏である

吳彬、字は文中、福建莆田の人。山水をよくし、人物にもたくみであつた。萬曆中、召されて工部主事を授けられた。人、その片紙を得れば、奇珍を獲たやうに尊重した。（福建通志）山水についてはその布置、絶えて古を摹せず、最も奇を出した。（畫史會要）しかしその得意としたところは人物にあり、形狀奇怪、はるかに舊人と別であつて、みづから門戸を立てた。殊に白描最もすぐれ、筆端秀雅であつた。されば神宗（萬曆）帝、ことさらにこれを賞で、御府に藏めたので、外間に傳へるものは甚だ少い。（圖繪寶鑑續纂）その人物でも、とりわけ佛像最も佳で、遠くは唐の吳道子にせまり、近くは元の趙子昂に匹敵するに足りると稱された。（五雜俎）中國では、この圖の外あまり見たことがない。日本には黃檗山萬福寺の羅漢圖（？）があり、國寶になつてゐるかと思ふ。これもなかなかすぐれたものであると記憶する

この圖卷は「萬曆辛亥歲春日寫、枝隱庵頭陀吳彬」と、卷首に款署してゐる

通り、萬暦三十九年、皇紀二二七一年の所筆である。圖卷としては頗る長いもので、十八羅漢を描いてあるが、その實十二羅漢で、六を缺く。はじめよりこれだけであつたらしい。橫披一連に描かれ、區切りを施さず、詞文を挿まず、連續しておのづから次ぎへ移る。ここに示したのは、その第七尊者である。卷末の跋書に曰はく、「第七尊者は水にのぞんで坐し、側に龍の水を出づるあり、珠を尊者の手中に吐く。うしろには胡人、短錫杖を持し、鉢奴鉢を捧げて立つ」と。その頌に曰はく、「われは道眼を以て傳法の宗となる、なんぢは願力を以て護法の龍と成る。道成り、願滿ちて佛を見なば、ことごとく玉函を取つて以て恩遜せしむるを怍ぢず」と

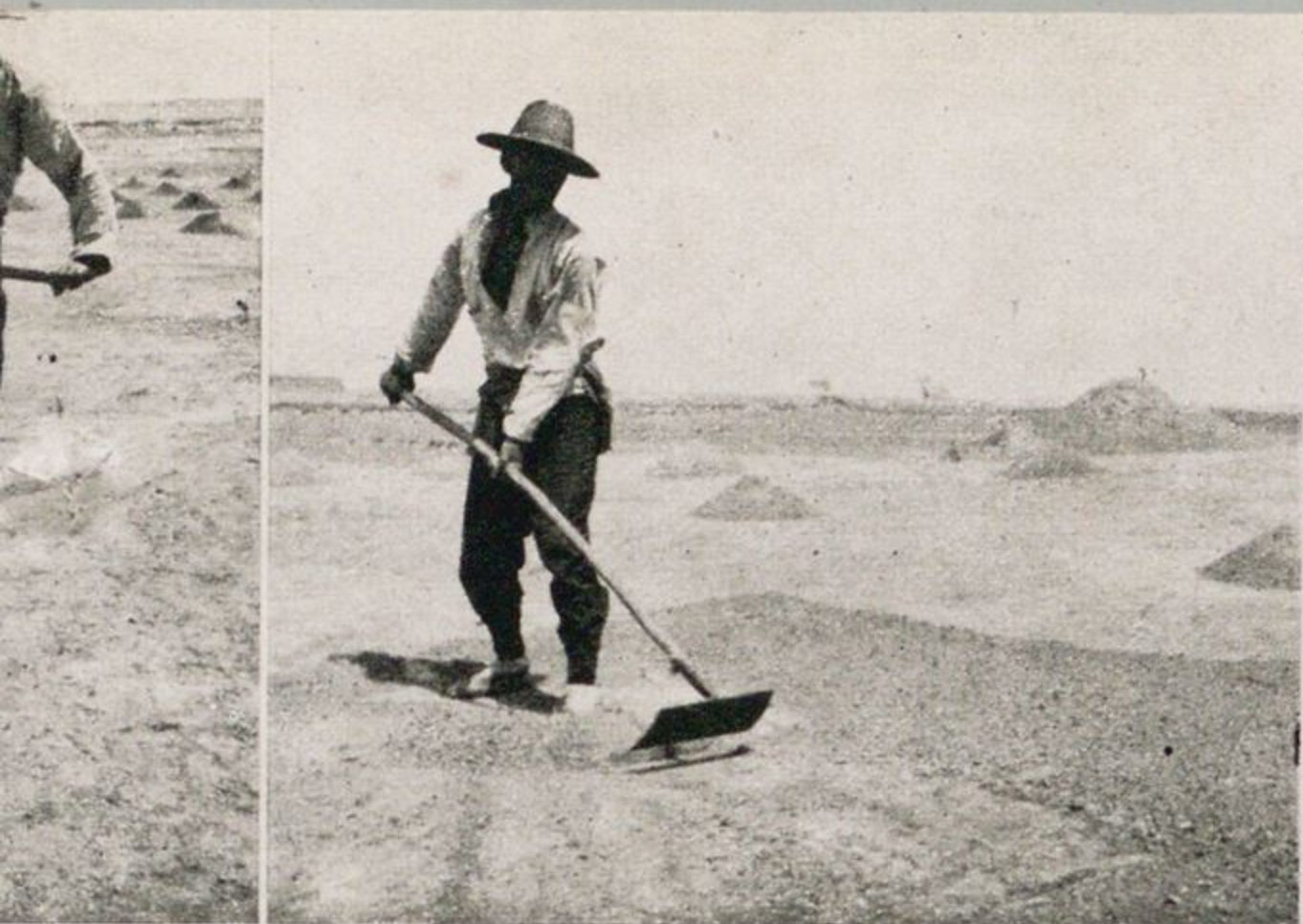
この畫、一見してやや常規と異るを感じる。顏貌、服裝の表現殊にさうである。龍の形狀、姿勢もさうである。しかし熟視するにつれて、奇態の觀は消えて、表現の技の巧妙なるを同感する。紙本に細毫端を以て白描を施し、わづかに淡墨の暈潰を刷してある。天地寥廓、雲漠々、羅漢と龍と相對して傳法、護法を契る。坤輿の一景である。筆力儁明、表象に曖昧澁滯がない。名畫と稱すべきである

ギリシヤの傳說には、姿を水に映したとあるが、金屬で鏡を造り、姿をうつしたことは太古から行はれた。しかし最古の鏡はみな圓鏡であつたらしい。これを安定させて用ひるために臺を附けたのは、おそらく漢時代すでに行はれたであらう。有名な晉の顧愷之の女史箴圖には、燭臺のやうな高い柱のついた臺上に妝鏡を置いて、おのが姿を見てゐる女性を描いてある。また牛形などの置物の上に圓鏡をおく例も、古くからあるらしい。宋代には柄鏡あり方鏡もある。それを、圖の如ききちんとした木額に嵌め、雕飾ある臺に据ゑつけたり、更に立派な筺式にして、室內裝飾に用ひるやうになつたのは何時頃からか知らないが、驚くべく精巧、且つ發達したものである。鏡臺や鏡でなくて、むしろ化粧筺と見るべきであらう。このやうに金銀の金具を打ち、玉石をさへ鏤めて、精技を凝らしたものは、必ず一對あつて、新婚に際し、花嫁が持來するのをならはしとした。工藝の最上のものと見るべきものも多い。また額式の姿見鏡には、紅木に雕琢を加へ、鏡面を寶石の如く磨き、鏡裏には名畫すら飾つた驚くべき美術品を見たことさへある

鏡（装飾盒）

A Portable Chinese Mirror

かき起した鹽土が乾いたら

こんな犁で地表の土を搔き起し

Manufacture of Iron Utensils

一輪車で濾過池に運ぶ

清水を注ぐと濾過池には泥が殘り

鹽分を含んだ水は豫め濾過池の下手に掘られた穴に溜る

鶏卵を浮べて鹽分の濃度を計る

濾過された鹽水は別に設けられた漂白池に移される

上水を箒で掃き流すと澤山の鹽が殘る

土鹽を採る

畑から鹽が採れるといつても日本では本氣にされまいが河南省蘭封附近では畑と言はず道路と言はず地面至る處から盛んに鹽を採つて居る

鄭州方面から東方の開封を經て遠く北方に開ける河北平野は太古は渤海の灣入した海であつたが何十萬年の星霜と共に上流から流下する黃土の沈澱と黃塵の堆積とで終に沃野千里を形成したのであつて、だから中原の地には鹽澤が少くないのだと言はれてゐる。殊に隴海線に沿うて徐州の西方碭山から漸次低下する窪地乃ち舊黃河堤防に沿ひ商邱、蘭封、開封を經て鄭州に至る地帶は支那では有名な天然曹達の產地である。この地帶一圓は乾燥期になると地表へ白く鹽分を吹出す。その表面に現れた鹽分を土と一緒に掻集め、水で濾過して泥土を除き、鹽分だけを乾燥凝固せしめるのである。その方法は至つて原始的であるが蘭封縣だけでも年產〇〇〇萬斤と稱せられる。この土鹽は質量共に海水鹽には及ぶべくもないが其の製法の簡易であること經費が廉い點に於て多分に將來性が有る

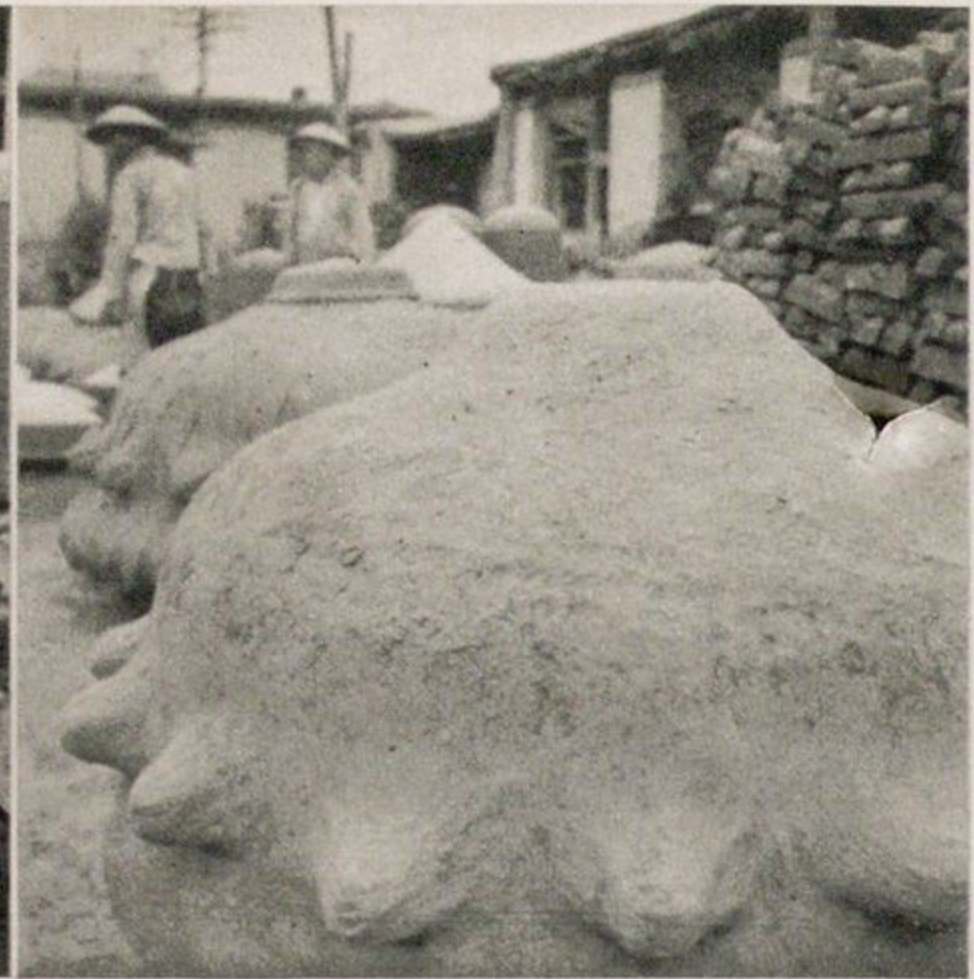
鑄型は粘土に麻屑などの纖維を混ぜてつくる

屑鐵とコークスを入れ、風を送り込んでコークスを燃燒させて鐵を鎔かす

高さ三、四尺、直徑二、三尺の鐵壺の中に

Making Salt on the Lung-Hai Line

鑄型の取外し　　鍋の鑄型

鐵鍋製造

支那の製鐵業は早くも先秦時代に始まるといはれてゐるが、青銅器の使用がすたれ、鐵器がこれに代つた漢時代になつて異常な發展を示し蜀、南陽齊、魯、河東、趙（河北省正定）の諸郡國はその素晴しい鑛業地域であつた。鐵は武器、各種の農業用品の生産のためにも用ゐられたが、家庭用品その他大皿、爐、釜、燒鍋、鏡、燭臺、小刀、車用の部分品などすべて鐵を以て造られてゐた。當時の技術は幼稚ではあつたが、その製品は白色鑄鐵に屬するもので西域の胡商が中繼貿易によつてこれをローマに齎した時、人々はその良質に驚いたといはれる。このやうに歐洲まで名を轟かせた支那の鑛工業が今ではその面影もなく、當時の熔鑛爐の址さへないほど衰微したことはまことに殘念である

北京には五十餘の鐵工廠があるけれども、資本金五千元から一萬元程度の家内工業の域を脫してゐないものばかりで支那鍋、ストーブ、車輪、その他各種の小鑄物類を製作してゐるに過ぎない。その材料も總て車輪のかけらや古鍋等の屑鐵が使用されその製作方法もまことに原始的であり幼稚な方法である。然し之等の鐵工廠も事變後日本の技術と經營方法を採り入れつゝあるから、近き將來には昔の隆盛を取戻すであらう

七月

京山線北戴河海岸は北京・天津、遠くは上海や滿洲からの避暑客で賑ふ
別荘地帶から海岸へ或は山へ、交通機關として驢馬が使はれてゐる

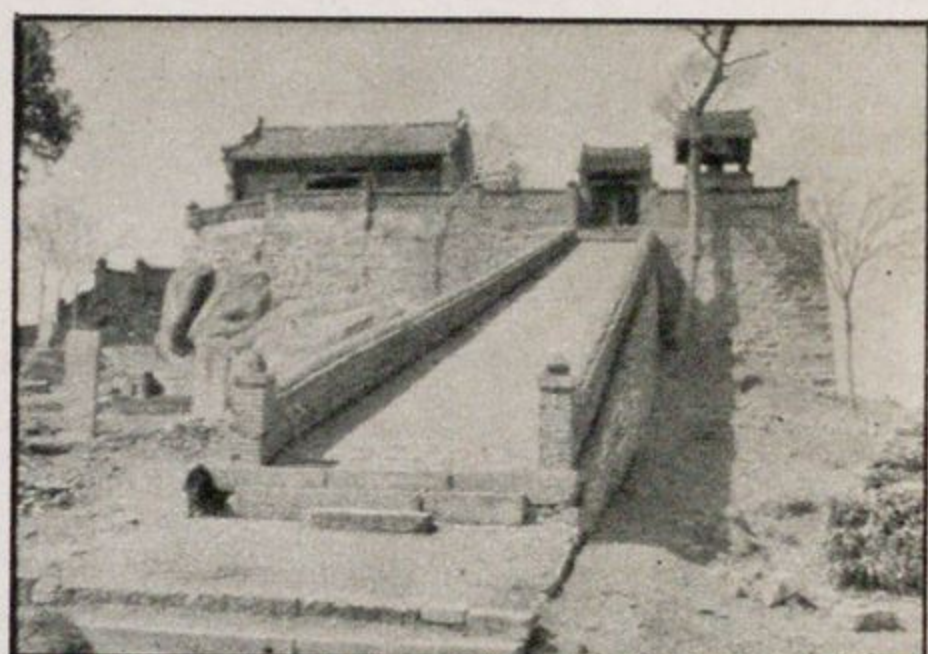
蓮をかぶつて・北京郊外にて

Summer Breezes in North China

Lens Eye View of Shanhaikuan

山海關廻廊地帶

熱河高原の東縁が渤海に逼る處、そこに幅員一〇――二〇粁の低地があつて滿洲より北支へ通ずる廻廊を形成する。甘肅より新疆に通ずる西北廻廊に對し、東北廻廊とも呼び得るが、この廻廊の南口を扼して天下第一關――山海關が構築されてゐるため山海關廻廊と言はれてゐる。これを關の北方六粁、礫岩切り立つ角山の頂より俯瞰すれば、形勢を案じ歷史を懷ふに便であり眺望亦絕佳である

山と海との間の所謂廻廊を成す低地は、一見沖積原の樣に見えるが、實は古い岩盤の削られた平坦面だから、先づその面は微かな波狀の起伏を持つて居り、古い砦や墩、それから淸末に設けられた十幾つかの砲壘――臺子、更に山海關の城市そのものも亦その地形を利用して建てられてゐる。城內を步けば岩がよく露はれて居り、それから湧き出る水は極めて淸冽であつて、日本人の多い南門外の樣な、洪積又は沖積土のある地域の水が硬いのと異るのも、山海關の發生動機の一つとして面白い。又城東八粁には長城にまつはる傳說のヒロイ

姜女廟

孟姜女の足痕といはれる特殊な浸蝕

姜女像

姜女墳、片磨狀花崗岩

長城によつて中斷された廻廊の俯瞰、地平線の彼方は黄海である

ン、劇にも謡はれる孟姜女を祀る廟が、同じく突起する岩塊の上にある。そして廟後の望夫石はその一部——片磨狀花崗岩である。また更に東方の海岸には姜女の墳と稱する岩塊もある

右の如き岩盤の更に大きなものは、關の內では北戴河附近、外では壺蘆島や興城附近にかけて、島の樣な丘——殘丘を形成してゐる。蓋し山海關城の位置の形勝さが惟はれる。故に燕山を傳つて來た長城も、角山よりここに降りて廻廊を切斷し恰も老龍が東海に水飮む樣を思はせて野を這ふ

尙この幅狹き平坦面が滿支間唯一の廻廊であつた許りでなく山の背後——熱河——（下圖）は卽ち古の蒙古の地であり、山海關は漢滿蒙の交界でもあつた。さればこそ此の廻廊を、否その廻廊の南口山海關を贏ち獲たるものは、已に華北の死命の半ばを制し得べく、また東胡の南侵も凡そ塞し得たであらう。かくて漢唐以來南侵北征兵の此處を過ぐること二十幾度、民族の嵐は燕山に吹斷し、人馬の血は石河の淸流に灑がれた。膏血に築かれ箭雨にこぼたれた長城は、靡なくして之を語るかに見える。就中、明末、吳三桂が流賊李自成の爲に、京にある寵姬を奪はれてより旌旗をかへし、偶〻捲き起つた蒙古風に包まれながら——上圖の右手の山下にて——苦戰したのは世に知られたるものの一つ。又近くは北淸の役にも聯合軍は上圖の長城より右手の秦皇島へかけての濱に上陸して先づこの廻廊を扼した。この海からの來襲を防がんとして、海岸に並行する城堡、塹壕が設けられたことは、南北の陸戰にのみ備へた古き構へと對照されて、民國史の徬の一面がここにも偲ばれる

而してこの地を征した聯合軍は、一つは冀東の山麓に近く路を採つて直進し、他は唐山、塘沽、天津を經略しながら京師へ急いだ。この後者のコースこそ中國最古の鐵路——當時旣に山海關——北京間に開通してゐた京山線の通ずるルートであつて、由來本線は、奉直戰、山海關事變等の戰史は勿論、滿支通車其他の交通上の豐かな鐵路史を辿り來つたが、今や東亞交通の幹線として、この廻廊を現代的意義に活かすべく、特急〃興亞〃〃大陸〃等々がひた走つてゐる

廻廊地帶の北方の山々

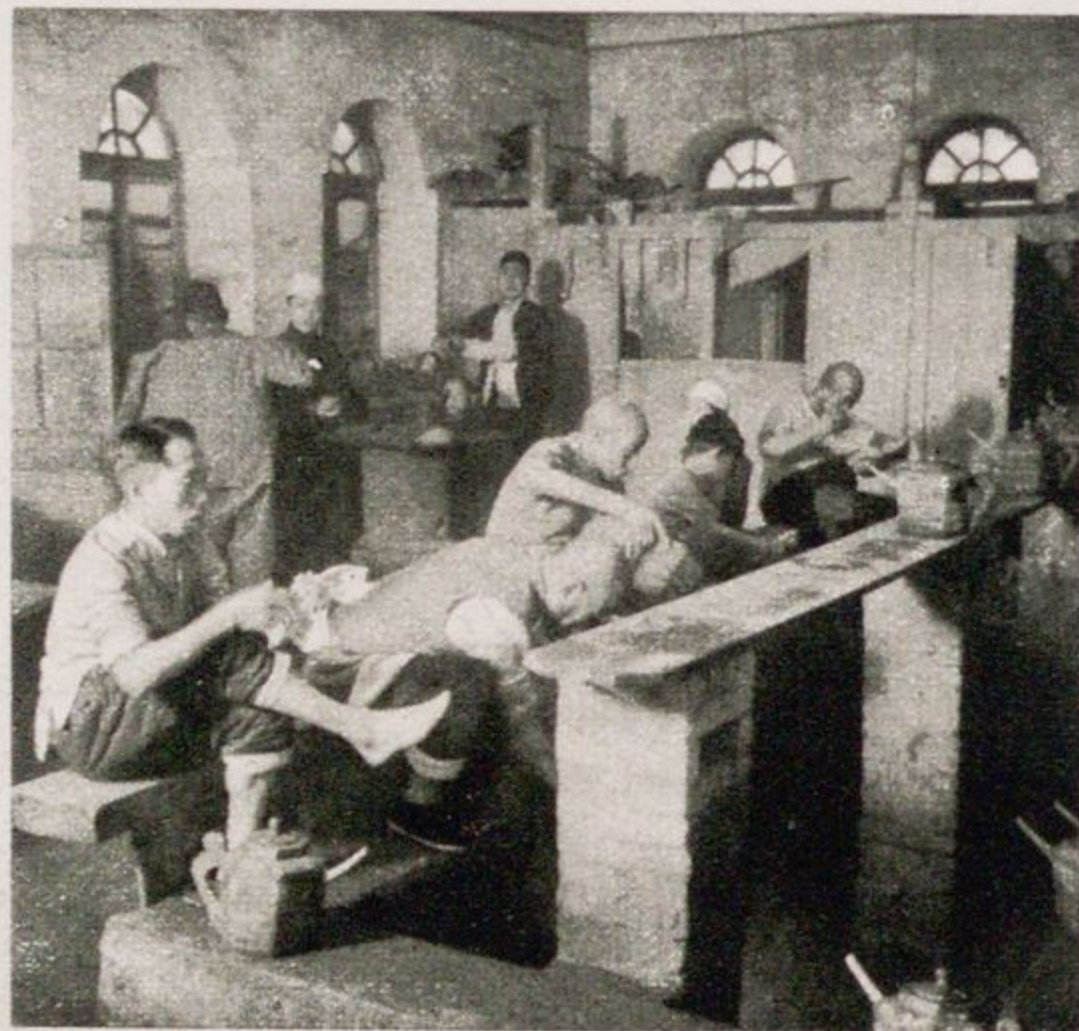
支那の回教徒

Glimpses of Life Among the Followers of Islam in North China

經典

毎金曜日にはメツカの方向へ祈念する

回教の禮拜堂・厚和

佛教、基督教と共に世界三大宗教の一たる回教（マホメット教）が支那に傳來したのは、唐の時代にマホメットの舅父と稱するワツカスといふ者が、廣東に來てその教を弘めたのが初めだと云はれる。然しこの方面からの傳來は極めて微力であつて、その後大して進展を見ず、宋代になつてカシガル（現在の新疆省南部）の酋長布格拉なる者が回教を信じてから、部下に信者が多くなり、布格拉がトルキスタンを征伐して回教徒を多數捕虜にして連れ歸るに及び更に增加した。其後元の支那本部攻略の際に多數の回教兵を使役し、それらが定住するに至つて、今日の支那全土に亙る通稱數千萬の回教徒の先祖となつたと云はれる。卽ち今日の支那の回教徒はトルキスタン方面からの移住者の子孫だと云はれる。正確な統計が無いので人口はよく判らないが、全滿支を通じ大體一千萬內外の見當であらう。移住徑路の關係上新疆、青海、甘肅、寧夏等の西北地方に多く、陝西河南、山西、河北、湖北等が之に次ぐ。然し新疆地方を除き、支那本部地方の回教徒の相貌は一見漢人と識別できないまでに同化されてゐる。ただ豚を食はないこと、清眞寺で禮拜すること、異教徒と通婚しないこと、その他嚴格に同教の戒律を守ることに依て、劃然と漢人と區別される

禮拜前には必ず手、顏、口、前膊、耳、足を洗ひ清める

回教徒の墓地

鐵路農場

棉花畑の除草

North China Railway Company's Agricultural Experimental Farm

昭和十三、十四年の二箇年に亙つて華北全域を襲つた水害と旱害は戰後の再建途上にあつた華北の農村を窮乏のどん底に落し込み、深刻なる食糧の不足を齎らした。昭和十四年度における食糧品輸入額は六千三百萬圓で、北支總輸入額の三六%の多額に上つたのである。この樣に疲弊のどん底に呻吟する北支の農村經濟の更生こそ、華北が當面せる緊急問題といはねばならない

土とからなる肥沃の土地で、小麥、棉花、高粱、粟など相當の產量を有するのであるが、治水灌漑の未解決による水害、旱魃の頻發と蝗害、並びに古くからの收奪農法とによつて近來は退化減收の傾向にあり、特に日本が北支に期待する棉花は粗毛品が多く、日本紡績產業に役立つためには凡て今後の改良に俟たねばならない

之等舊來の北支農業に科學の息吹きを

の大宗たる棉花の栽培改良の必要を痛感し、關東軍及び滿鐵の援助を受けて設立したもので、當時派遣されてゐた滿鐵技師は通州事件に遭つて何れも北支開發の礎石として悲壯な殉職を遂げてゐる

事變後、華北交通の設立に伴つて同社の經營下に入り、內容施設は一段の擴充を得て棉花の改良增產の指導を中心に一般農藝化學、種藝、畜產、作物病

アンゴラ兎は年四回剪毛が出來る。一箇年の毛量は二五〇瓦

水稻による土壤生産力試驗

元來北支の經濟機構は農業を中心に發展して來たものであり、政治的安定とともに農民大衆の生活改善なくしては事變の處理は困難である。即ち農業における各種の惡條件を改善し、社會的生産力を向上せしめ貧農大衆の福祉增進をはかることが事變をして有終の美を收めしめ延いて東亞の新秩序を建設し得る所以である

もともと北支の土壤は黃土とその沖積

與へ、民生の福祉向上を計るため設けられたものが、華北交通の通州中央鐵路農場を始めとして各地に設けられた鐵路農場、園藝試驗所、苗圃等の農事施設である。之等農事施設は充實した技術員の陣容と機構とを有し、北支における最も有力な科學的農事指導機關となつてゐる

中央鐵路農場は前北寧鐵路管理局長殷同氏（現華北交通副總裁）が北支作物

理並びに害蟲に關する試驗調査を行ふ傍ら氣象狀態の總括觀測も行つてゐる

窮乏し切つた北支農村を早急に建直すことは容易なことではあるまい、しかしこれら華北交通の農事施設によつて指導されつつある愛護村の農民は、大きな希望と光明を見出し、農村の更生を目指して漸く活潑な活動を展開しつつある

バークシヤ種の豚

The "Wan Hsiang Yu" Flower in Full Bloom

晩香玉

草丈は二、三尺で葉や根などは水仙に似て居り、夏日姫百合に似た六瓣の白い花を開く。夜に入れば特に芳香が强いといふので晩香玉と名付けられ、姑娘達の花簪にも使はれる可憐な季節の花である

孟姜女の傳說

石原巖徹

　支那に於ける代表的な烈女として傳說的に語り傳へられてゐる孟姜女の故事に就いては學者間にいろいろの考證もあるが、一般民衆の間には、劇に仕組まれてある次の如き筋に依つて傳へられてゐる。

「秦の始皇が匈奴を禦ぐために萬里の長城を築くことになつたところ、難工事で早急に竣工おぼつかない。時に奸臣趙高といふ者があつて、萬喜良といふ青年を人身御供にして祭れば長城は立所に出來ると進言した。始皇はそれを信じて、人を遣はして喜良を召寄せることになつたが、この話を早くも傳へ聞いた喜良は、難を避けるべく松江に逃れた。

　松江に逃げた喜良は、とある花園の中に身を匿さうとして入つたところ、そこで、美しい娘が池の畔で裸になつてゐるのを見た。娘は蝶を追つてゐるうちに誤つて池にはまり衣服を濡らしたので、誰もゐないと思つて裸になつたのだが、喜良に肌を見られたことを知つて大に恥ぢ且つ怒り、喜良の無斷家宅侵入を責めた。然しわけを聞いてゐるうちに喜良をにくからず思ふやうになり、又かねてから彼女は自分の肌を見た者を夫と定めることにしてゐたので、この男と結婚しなければならないと決心した。そこでこの事を父母に告げて喜良を家に伴ひ直ちに婚約を結んだ。この娘が卽ち孟姜女である。だがその時にはすでに始皇からの追手が様子を知つてこの家（孟家）に馳けつけてゐたので、喜良はその場で捕へられ、直ぐに都へ送られた。

　孟姜女は實家で、この未婚の夫の便りを一日千秋の思ひで待つてゐたが、いつまで待つても何の便りも無い。そのうちに冬になつたので、彼女は夫に寒衣を屆け旁々様子を探るために、長城へ旅立つことに決心した。彼女の熱望にまけた父母は、下女と下僕を伴に附けて旅立たせたところ、下僕は惡心を起して途中下女を殺し、孟姜女に挑んだ。彼女は下僕の意に從ふと見せかけて隙をねらつて谷底に突き落し、貞操を完うして、只一人千辛萬苦の末長城に辿り着く。長城に來て見ると、尋ねる夫はすでに此世の人でない。彼女は驚き悲み且つ怒り、哭いて哭いて長城を哭き壞してしまつた。

　趙高（一說には蒙恬）は彼女の美貌を見て、始皇の妃に推薦しようとしたところ、彼女は、夫の屍骨を探し出して厚く葬り、且つ始皇をはじめ文武百官が皆喪服を着けて盛大な喜良の葬祭を執行することを條件としてそれに從ふと答へた。始皇はその申出を全部聽きとどけることにしたが、葬儀が終ると彼女は橋の上から投身して夫に殉じてしまつた」

　右の物語で趙高が喜良を人身御供に選んだに就いては、喜良の父と趙とが仇敵關係にあつたので、その宿怨に因るといふことが理由とされてゐる。

　なほ孟姜女の名は一定してゐるが、その夫（未婚）に就いては、右の萬喜良の外に、范喜良、范杞梁、范紀良等の諸說がある。考證家によれば、これは杞梁（范の姓は不明）といふ人物の名が孟子に出てゐるところから出發して、近似音により種々變化して傳へられたものだといふ。卽ち孟子に「華周杞梁の妻、善く其夫を哭して國俗を變ず」とあるその杞梁である。（華周も人名）而して杞梁は又杞殖といふ說もあ

内容

グラフ

槍投げ……表紙
釣……1
中原横斷……3
開封の鐵塔……7
和平救國軍……9
中元節……13
阿羅漢圖……15
鏡……17
土甕を探る……19
鐵鍋製造……21
七月……23
山海關廻廊地帶……25
支那の回敎徒……27
鐵路農場……29
晩香玉……31

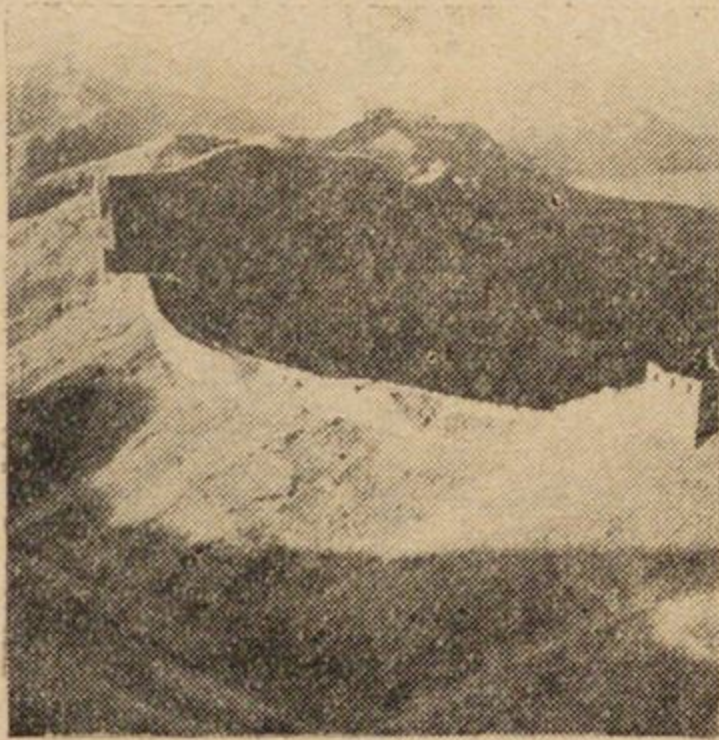
よみもの

孟姜女の傳說……34
新版和製神農岐伯傳……36
冀東水運……38
謙受益……41
同蒲線から嵐縣へ……42
晋南の街道に拾ふ……44
可園雜記……46
北支暢談……47
支那の面積と人口……49

り、范殖といふ説もある。別の説によると殖が名で梁が字だとも云ふ。

○

孟子に出てゐる杞梁の妻の事は、戰國時代の歴史を演義的に書いた「東周列國志」第六十四回に出てゐるのが比較的に詳しい。その大要は次の通りである。

「齊の莊公が莒國（註・今の山東省莒縣）を攻めた時、勇士華周、杞梁の兩人が進んで先鋒に立つことを願出、許されて挺身敵に當り、更に決死の士隰侯重なる者を得て三人で大に莒兵を殺した。莒の大將黎比公は城門に通ずる狹い道を掘つて溝を作り、溝の中に炭火を盛んに燃して彼等の前進を阻む。猛勇隰侯重は、その身を烈火の上に横へて、橋となり華、杞二人を渡して自分は燒死してしまふ。二人は之に感奮して城門に突進すると、待ち伏せた城兵のために、猛射を浴び、杞梁先づ戰死し、華周は身に數十箭を受け力は盡きたが未だ死ななかつた。これを聞いた莊公は大軍を差し向け一氣に城を攻め落さんばかりの勢を示したので、黎比公は使者を出して降服を申出た。そこへ後方から急使が來て、晉侯、宋魯、衞鄭の各國が齊國攻撃を謀りつつあることを告げたので、莊公は、莒國を許し、杞梁の屍及び華周を車に載せて齊に歸つて行く。一行が齊都の郊外に歸り着いた時、杞梁の妻孟姜が出て來て夫の屍を迎へた。莊公は車を停めて人を遣して弔問せしめたところ、孟姜は『夫に若し罪が有るならば弔問していただくこともありませぬ。若し、罪が無いのでしたら、夫の家はまだ在ります、ここは弔問する所ではありませんからお斷りします』と云つた。莊公聞いて大に慚ぢ、杞梁の家に屍を納めてから厚く弔問した。孟姜は亡夫の棺を城外に奉じて、露宿すること三日、連日連夜棺を撫して慟哭し、つひに涙盡きて眼から血が流れるに至つた時、忽ち齊の城が數尺ばかり崩れ陷ちた。烈女の至誠と切々たる哀情が感じたためである云々」

萬里長城

なほ東周列國志の作者は、この事實を後人が誤り傳へて、上揭の秦の始皇の長城築造に結びつけたものだと記してゐる。

○

白占友の「孟姜女的故事考」（民國二十四年出版）に據ると、孟姜女の故事は、前揭の東周列國志所載のものが眞相であつて、今日一般に傳へられてゐる始皇の長城築造にからまる物語は、次の如き理由に因り故意に變化させられたものであると云ふ。卽ち、

一、秦の始皇の時、燕趙諸國の長城を大々的に重修又は延長した。その命令は極めて嚴酷で、工役は多く民衆を强迫して從事せしめ、督工の官吏は極めて横暴で、工賃を與へないばかりか、虐待されて慘死した者も少なくない。ために怨聲は巷に滿つるに至つた。そこで後人は始皇の虐政を憎むの餘り、杞梁の妻が夫の死を哭して、齊の城が崩れたといふ故事を始皇の長城修築に結びつけたものである。

二、秦が亡び漢興るや、漢は努めて秦の惡政を宣傳した。凡そ人民の秦の惡政に對して發した怨嗟の聲は、極力それを宣傳して、漢の善政を粉飾しようとした。從つて杞梁の死を始皇の長城修築に結びつけたことに對しては漢の政府の宣傳が作用してゐる。

三、一面に於いて始皇の惡政を暴露すると共に、他面にて夫婦間の熱誠なる愛情と、女子の貞節を描寫し、以て後人の龜鑑たらしめんとした。

○

以上白占友の解釋は大體に於いて肯定さるべきものと思はれるが、筆者はむしろ、始皇の强引な長城修築に因由する幾多の民間に起つた哀話慘話を代表するものとして、此の傳說を取りたい。而して東周の杞梁及びその妻の故事は、この傳說を作るための資料（或ひはヒント）となつたものだと解釋する。結局白占友の右の第三の解釋が最も妥當と感ぜられるが、劇に演ぜられるところに依て見れば、始皇の惡政よりも孟姜女の貞烈宣揚に重點が置かれてゐるので、この傳說は、貞操思想涵養を主眼として作られたものではないかとも考へられる。

なほ、この傳說に基く孟姜女關係の祠廟寺は山海關東方の孟姜女祠及び姜女墳竝に望夫石の外、古北口及び山西の潞安にも姜女祠があるといふことである。因みに、孟姜女の劇は「萬里長城」「哭長城」等の名があるが、今日の重劇（皮黃劇）には無く、梆子（秦腔）と稱する今日非常に衰微してゐる劇のものである。（筆者は華北交通資業局參與）

北支農民指導夜話

新版和製 神農岐伯傳

田尻末四郎

農村は傳說神話の溫床であり、太陽の子農民は神秘な世界の涉獵者であることを御存じでせうか。

科學と言ふもののなかつた昔、太陽と土と作物と家畜と共に生きて來た農民達は自分の想像外な一切のものは凡て神の攝理によるものと思つて敬虔な氣持に生きて來たものです。

聰明な讀者諸賢に私は何も農民の特殊心理をわざわざ御話申上げるのではなくて先づ農民の氣持の置きどころと言ふことを斷つて置かないと之から御話申上げようとすることが荒唐無稽だと仰言る方がありさうに考へられるからです。

支那は文字の國とは申せ、それは一部文人と言ふ者の間にこそ通用するに過ぎず私が之から御話申上げようとする北支の農村などでは文字と言ふよりも姓名の字を解する者何%、小學校を畢へた者何%と言つた方が早い位無學文盲の世界です。

何しろ私達の方で昨年度初めて斯う言ふ調査を鐵道愛護村八千箇村三千萬人に亘つてやりました結果、文字を解する者實に五%位だと言ふ驚くべき數字が出て參りました。

鐵道愛護村とは鐵道の兩側各〻十粁の地帶內にある村を謂ひ、產業開發、文明開化等に於て最も進步してをるべき筈でありますが、斯樣な數字が現はれるといふことは支那農村に於ける文化水準が如何に低いかを物語るものであると思はれます。

勿論此の一事を以て萬事を測る事は或は當らないかも解りませんが、兎も角支那の農村程稅金の對照となる以外政治政策の計算外に置かれて居た國は又とありますまい。

「その志を弱くし、その骨を强くす」と言つた愛すべき李耳老人、竟り老子の捨てぜりふの通り、全く支那の農民は文句を言ふだけの能力を失くし賴るべきは已の逞しき骨あるのみであつた事は私達支那の農村に關係する東海の男子には見るに忍びないものばかりと申し上げても過言ではない位です。

我が農政の最高峰那須博士が「中華民國今日の最大急務は……疲弊困憊せる農村を振興するにある、此の大事業に成功すると否とは、民國將來の運命を決する。農村をその衰ふるに任せつつ共匪討伐のみに沒頭することは、これ薪に油を注ぎつつ火を消さむと努力するに類する。農村の制度、經濟、生活並びに文化が、一度合理的軌道に乘る時民國爾餘の諸問題の大半は、刄を迎へずして解くるの槪を示すに違ひない。」と述べられて居るが、全く我が日本が今次事變以來作戰と表裏一體する建設戰に於いて農村問題を眞劍に採り上げ支那に於いては有史以來嘗てなき科學農法を以て指導に乘り出して居るのも首肯さるる所で御座いませう。

私は今科學農法で指導して居ると申しましたが何しろ相手は勘以外の經驗論を出でない在來農法を踏襲して來た百姓なんですから作物の病蟲害一つ豫防驅除するとしても藥の效果等信用しない。其處に指導者達の特別の心勞もあるわけですが一體それにはどう言ふ方法が考へられて居るか、技術日本の輿望を擔つて立つた若き農村指導者達は凡ゆる障壁を乘り越えて科學日本の威力を遺憾なく支那の農民の前に示現しつつあります。

前にも一寸申上げましたが北支蒙疆

に於きましては鐵道、自動車、水運路を統轄して居ります華北交通會社が、その運營する交通路兩側各々十粁の地帶內は愛護村と言つて土着の村落を一應新體制的整備の下に再編成して新秩序建設の基地的役割を果さしむるため目下八千箇村を華北交通會社が指導して居るのですが、現地で愛路工作と呼ばれて居るのが竟り此の仕事のことなんです。

此の愛路工作卽ち鐵道マン達が行ふ支那の農民指導、斯う申し上げた丈けでも內地では一寸不思議に思へるでせうが、華北交通には農事試驗場もあれば愛路勸農場と申しまして採種場、種畜場を一緒にした上に惠民道場と言ひまして愛護村の中堅青少年を錬成する農民道場も附設されて居る農事施設が各地に十數箇所も、設置されて居ります。その外各驛每に愛路塾と共作農場があり之が一貫的な系統下に組織されて農事開發や農村教育の爲に大いに活用されて居るわけです。

話は橫道に外れたやうですが、此處に配屬されました鐵道マンが卽ち愛路工作を擔當して居るので御座いまして此の人達が大陸思想戰の鬪士であり、又更生中國新秩序建設の戰士であり、農村の指導者達でもあるのです。

先づ此の逞しき意慾に燃ゆる指導者が農村に乘込んで行つてやる事は何かと申しますと病人の治療であります。

大陸の農民は素朴です。博士でなければ通用しないやうな感情はもたないのです。彼等がアスピリンとかキニーネとか健胃錠とをもつてする施療施藥その效果は驚くべきものがあります。

一度彼等のサジカゲンを體認した農民達に二度三度根氣よく接觸し或は蓄音器を携帶したり、或は紙芝居を演じたりして親しみと信賴とを贏ち得たならば人事相談、農事相談何でもその相談相手となつて行く中に彼等指導者達が愛護村民になくてはならぬ存在であることがはつきり解つて來るのです。

クリスティーの「奉天三十年」を讀まれた方は民心を掴むことの如何に困難であるかも御解りでせうが、此の匪害に戰く農民達を軍に協力して保護し病める者へは藥を 惱める者には相談相手となり、荒れるに委せられた作物には肥料、藥劑を、蒔くに種子なき者へは種子をと言ふ具合に一切を擧げて溫かき手に抱擁さるるに至つて愛護村民達は此の日本の指導者なくてはやつて行けない事が解るのです。

うら若き新妻を伴つて敢然と農村に飛び込んで行つた開封のF、妻に藥箱を負はせて自分は輕機を肩に共產地區を宣撫に巡回して居る山西のK、例を擧げれば數千の愛路の戰士が愛と誠の行者となつて、燃ゆる熱情を農民指導に注ぎ込んで居る姿は所詮私の禿筆では描き盡す事は出來ません。

醫師さへもサジを投げたやうな何年かの間疥癬に苦しめられた少年の頭を祈りつつ洗ひながら聖戰の意義を說いた山西のKの傍には今は快癒した李少年が立派な反共の鬪士となつて立派に匪賊討伐の先導をして居ります。

支那では神の奇蹟に類するやうな三百も產卵する改良鷄に怪奇の眼を注いで居た通州の老婆はその鷄が配付されて以來指導員を幾度匪襲から守つた事か、餓死線上を彷徨して居た冀東地區の水禍の民は食糧配付や種子の貸付によつて完全に更生した昨年の夏「堯舜の政とは斯る事か、我等眼前に王道の示現さるるを見たり、擧りて我等新政を擁護し鐵道愛護の完きを期せん」ことを誓つた感謝文は日に增し机上を堆高く積み上げて行つたこともありました。

ともあれ私は太陽の下、土と共に生きる者には眞實がある事をはつきりと知る事が出來ました。

日に日に結ばれて行きます華北交通愛護村の若き日本の指導者と素朴な大陸農民との魂は現實の姿となつて結果されて參りました。

歪められた政治の桎梏の下で三千年の間喘いで來た支那の農民にも新らしい希望と輝かしい前途が約束された事は如何に逆宣傳に巧な蔣介石や中國共產黨と雖も最早施す術もない程に凡ての事實が之を解決して行くのです。

匪襲に殪れた京漢鐵道愛路少年隊員揚君が將に息絕えなんとする時微かに口を開いて二度奉唱せる「君が代」の國歌こそ東亞共榮への大道を驀進する者のみが有する國境を越えた至高の感激の歌でなくてなんでありませうか。

北支一億農民の先驅として愛護村は新らしき指導者の下に太陽の子たる本然の姿に立ち歸り敢然として滅共の大旆を揭げて興亞のルート華北交通の防壁を築き上げて居ります。

愛すべき北支三千萬の愛護村民にとつて愛路工作に當る華北交通の鐵道マンこそ將に現代の神農岐伯の役割を果しつつある存在と言へませう。

何しろ、文盲素朴な農民と言ふものは、摩訶不思議な力を示すものは凡て神通力によらざるなしと考へ勝ちですから。妄言多謝。

（筆者は華北交通警務局員）

冀東水運

小林倍一郎

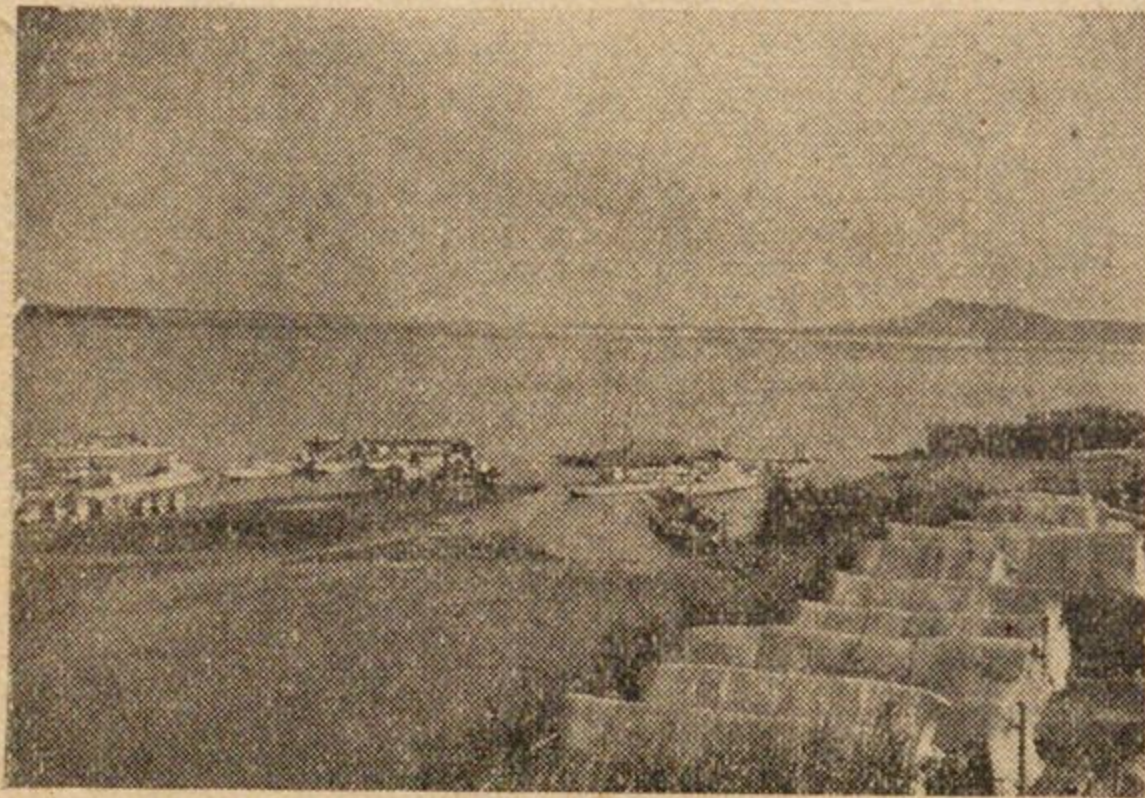
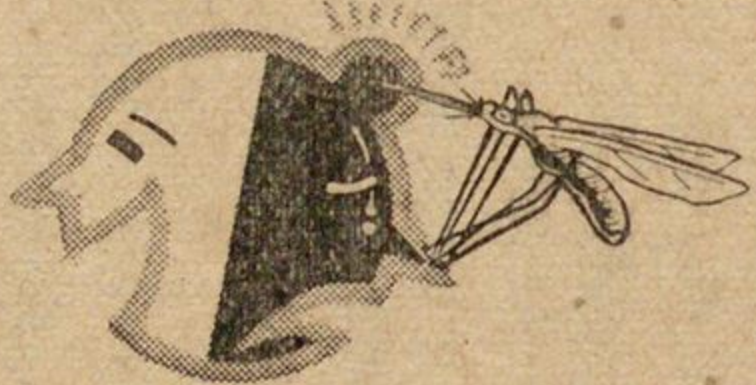
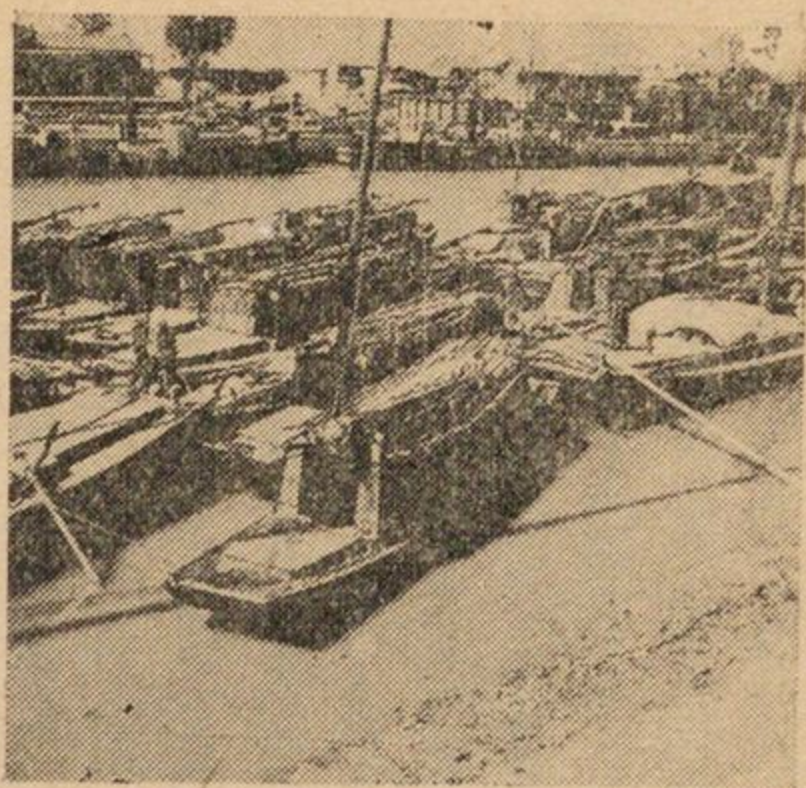
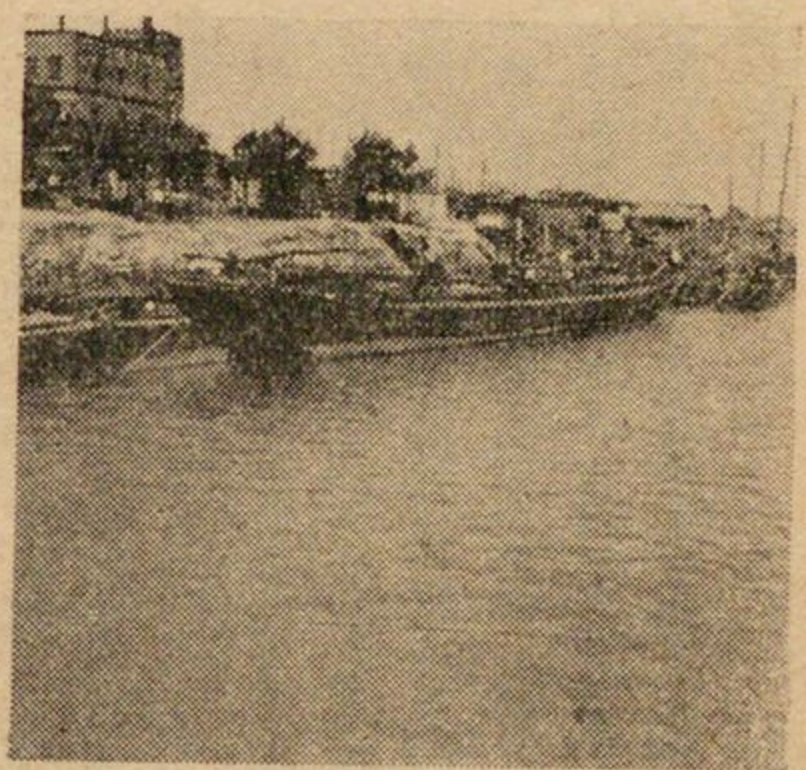
一　冀東及びその水運の史的一面觀

私は、嘗つて歴史地圖をめくつてゐて、遼代の版圖が中原の一角へ南下した形が、所謂冀東なる現在の地域名に略〻該當するを見て、歴史の必然性と地域性との關係への聯想に耽つたことがある。

蓋し燕山の下冀東の運命は、その北方高原へ發生する民族的高氣壓の勢力に委ねられがちである。北狄東胡の隆盛に逢ふ毎に、ここ冀東の地は天を覆うて胡沙吹き荒ぶのだつた。前清の侵入過程を別にしても戰國、三國、五胡の亂より五代にかけ、いつも當地域に於ける民族の混亂が傳へられ、これが冀東の史的特殊性とも考へられる。

而も南方中原の治下にある期間についても、いづれは北鎭の要域として、漁陽の鼙鼓は天下を戰かしめるのを常とするために、この地の征定と獲取は國內平定の先決條件であり、この方面への政治軍事の機關は忽にすることが出來なかつた。從つて交通路としての水運が古代の薊、漁陽（以上は、今の永定河、北運河の流域）右北平、昌黎、遼西（以上灤河附近）に向つて考慮せられた。——例へば北運河の前身とも見るべきものが漢代に於いて既に笥溝といふ名で開かれてゐた。——

灤河平底民船

併し他面北狄東胡の手下に陷つても却つてその前衞地帶である當地域を、北よりの位置にある彼等の都に結ぶ交通路は重要極まるものであつた。單に兵站路としてのみでなく、純經濟的觀點よりするも、本地域を通じて遼東や中原の物質が、北方高原へ搬入されねばならなかつた。前述の遼金時代の如き極めて興味ある右の形態を物語る。試みに之を述ぶれば、遼の五都の中京は今の熱河の南東部の平泉にあり灤河の支流靑龍河——今も增水期には長城に近き建昌營まで小舟が溯ることがある——の北方に當る。そこで灤河の利用は遙かに多くその下流より遼西、中原の物資は北送されたし、當時の南京が今の北京にあつたに對しては軍粮城（天津塘沽の中間）を基地にして白河により北送したのであつて、二者相並行した形態にあつた。又金も初め中京は遼のままであり、後これを北京としたけれども灤河水路の重要性は變ることなく、遼の南京（今の北京城）も中都とされたから、白河水路に於いても價値の變遷なく、かくて灤河の下流の泊津は輸送指揮總官ともいふべき元將の名に因む倴城が榮えた。灤城鎭は今灤河デルタの西邊、沂水に臨み、灤縣の南方三十餘粁にあるが、數米の段丘上にあつて三方低く、これを巡つて舟が着けられたらしく又灤河とは東北へ運河によつて通じた。

又、金の南京卽ち今の北京とその北

艕子船

京（平泉）との連絡上古北口ルートの重要性の増大に従ひ、一時廢せられてゐた漢の笥溝の址にほぼ似た今の北運河を開いて、宋末より漸く發展して來た三岔口（今の天津）や前述の軍粮城より水路に依つて、一つには南京にも寄り他は更に北上して古北口ルートに至つた。蓋し元の南下前八年に當る。上述灤河、白河水路の隆盛のみならず徒河、薊運河の歷史亦右に準ずる點が多い。

二　現狀の概略

1、水路

A、灤河　遠く察北の高原より來る本流は多倫附近でも三四尺の水深を持つてゐるが交通路として重視されるのはやはり承德や灤平から下流である。

この承德又は灤平から潘家口即ち長城までは山峽を穿つので、北支に珍らしい絕勝を通り、風呂敷のやうな帆も用ふが主に曳航に賴つて上下する。長城以內は稍〻水路條件がよくなり、長城が五、六月から九月までしか運行出來ないのに比すれば此方は四月より始められて十月頃まで航行可能である。更に偏涼汀（京山線のクロスする地點であり、車窓から巖に倚つて、清流に懸る小聖廟の佳景が見ゆるので周知の地點）以下は河口まで二、三米程度の水深が得られるので水路利用は一層容易である。蓋し遷安、盧龍、偏涼汀、灤縣などの市場は、附近農產を集めてこの水路に依つて運び出し遼東や京津に捌く職能を獲つてゐたものと思はれる。尤も鐵道が開通してからは、本水路はその培養路となり、上下流より灤縣に集散する傾向が強い。運搬されるものには農產、中でも甘栗（世にその甘さを以て親しみ呼ばれる天津甘栗──南支でも天津糖炒栗子は冬のよきおやつである）、梨などの果實、穀類が多く、中には熱河の藥草、大清河方面の鹽などもある。

尙灤河水運はその季節が現在のところ夏季に限る恨みがあるが、その夏季は恰も陸上の車馬道が泥濘期であり、又農繁期といふ點から見ても、十分交通上に果さねばならぬ分野を占據してゐる。だからその期間が短少であるとは言へその低運賃を以て承德に入る關內よりの通路としては唯一であり輕視出來ないものである。

B、東北河系

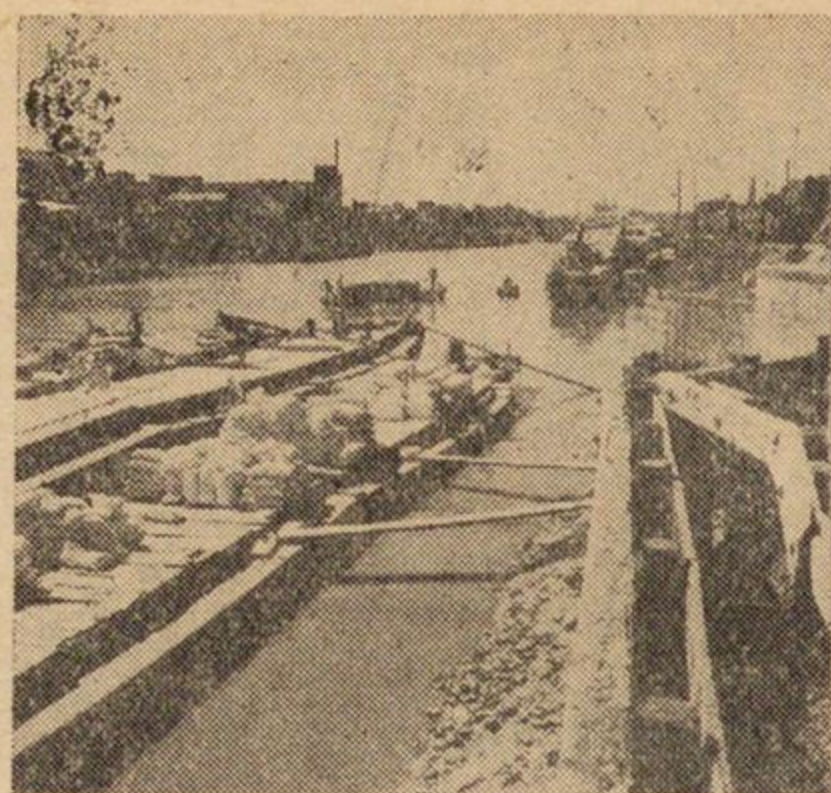
イ、唐河（煤河）唐山の西方河頭といふ村（京山線胥各莊の北西）から、薊運河の閻莊（蘆臺の北方）まで約三十六粁、幅二〇──三〇米の運河である。もと開平炭礦時代その石炭を京津へ運ぶために手を加へたものであるが同じ英系の鐵道京山線がこれに並行して西方へ通じてからは、炭坑と鐵道間の協定により本水路の利用に制肘を受けるに至つたが、事變前でも尙二、三萬噸余の石炭が西送されたし、唐山方

改造子船

面の產物（紅管、棉、落花生、石灰、バラスなど）それから天津塘沽方面より麥粉、雜穀、鐵具、アンペラ、肥料雜貨など凡そ十萬噸位の運送を見てゐた。

ロ、薊運河　河口の北塘より薊縣東南の五里橋まで二百粁を越える。增水時泃河によつて三河平谷に至れば更に航行距離は延長する。併し低水時も小舟を通じ得るのは上倉鎭以下である。そして下流八門城（支流箭桿河との合流點）以下は最も民船の集る水路であり、水深五米前後に達して、かなりの大船も入り來る。殊に漢沽以下は風ある日など却つて小舟は危險で大きなものでないと困る位である。目下華北交通で小汽船の運行をしてゐるのは、この下流部の北塘─豐臺間である。尙ほこの薊運河の支流、豐潤方面より來る還鄉河も、十七─八粁の舟便を持つてゐる。

薊の本流方面からは高粱（稈及高粱酒）玉米、卵、果實──以上は上流の沿岸より──、アンペラ、棉、魚──以上、下流域より──、還鄉河方面からは果實、落花生、石灰などが運び出されて來るのに對し、天津や塘沽及び唐山方面から北の方の沿岸に向つて、麥粉その他の糧食、棉絲布、官鹽、石

メリケン粉を積む對槽子

油、肥料に雑貨などが運び込まれてゐる。

面白いのは此の流域の舟泊地に近く各〻地方中心市場があつて、冀東域内商業活躍の基地となつてゐるばかりでなく、古くより對熱河取引市場でもあり、この二種の取引を水路を主として商都天津に結び、車馬路——近くは自動車便——によつて北京なる消費地に通じてゐることである。

ハ、蘆臺運河と金鐘河　天津より北塘に通ずる金鐘河と、その途中（于家堡）より七里海とよばれる低窪地帯を過ぎて蘆臺に至る蘆臺運河は、上述薊運河系統の水運をして天津に結ぶ水路である。前者の水路約四九粁、後者三八粁。ただ後者は目下一部通じない部分があつて充分に利用されてゐないが之を改修して往時に回せば、前者と共に五六噸の船を通はせ得る。尙金鐘河が海河に取り付けられる現水路は、李鴻章の案によつて開かれた立派な運河で新開河と呼び、日に二回水閘を開いて水運及灌漑に利してゐるのみならず増水時には海河の放水路として利用されてゐる。

この水路を東西に動く貨物は、前述薊運河と天津との連絡水路といふ機能に照して、大方推察出來ると思ふが、中でも北支最良の品質を以て鳴る東河棉（冀東棉花）は、重要なものであらう。

ニ、北運河　天津より通河まで百四十三粁、更に牛欄山（對東蒙商品水路の終點）まで五十粁程が増水時に遡航出來る。

但しこの水路は前清時代の重要性が主として李遂鎭の洪水による決潰に基く水路の悪化、新交通形態の進歩等に阻まれ甚だしく低下してゐる。やはり沿岸より天津へ棉花その他の農産の搬送と、天津よりの諸雑貨の仕入とに利用されるのを主とし、その外は京北、たまに熱河方面との交通路として往時の名殘を殘してゐる程度である。

2、民船

灤河の舟は殊に小さい特殊のもので水深の變化に適應するために灤河を限界として、下流は窪んだ舟底を持つてゐるのに對して上流は平底になつて居り、それもまた長城以北に通ずるものは形が特に小さくなつてゐる。

東北河方面に使はれる民船は、對槽子が主である點は河北一般の場合と同じである。この船は同形の二隻の船（槽子とよぶ）を艫を合せて用ひるが、水路の屈曲が多かつたり、流速の大きい處では離して用ひることが出來るので便利である。この舳艫同形に似て尖らぬものに莽牛槽子といふのが東河方面には特に多い。これに似て極めて低い船室を舟上の一部に設けたものがあつて、鰟子といふのがある。以上に次いで改造子といふのがある。これは元來河南方面を地場とするので、東北河に入るのはあまり多くはないが、前清時代運糟總督が河南より通州に運送した御用船を、三年毎に一度、民間に拂下げたものを改造したのであるから、北運河より、東河にも漸次入つて來てゐる。

上述の主要民船に對して極めて粗雜な小船があつて、時には糞便、時には雑貨など雑用を果してゐる。見た感じからして下駄舟とも呼ぶべきものであるが、天津浸水當時如何に之れが活躍したことか、但し中南支の舢板、ヴェニスのゴンドラに擬するにはあまりに粗野であるが、この粗野といふことが内河民船の沿岸民船に對する先天的性格の一つである。

特殊の貨物民船としては長蘆鹽を運ぶ鹽船、石炭を運ぶ苫板を持たぬ煤船などがある。

三　今後の冀東水運

寄せては返へす民族の波動に乘り、或は榮え、或は廢れた冀東の水運も、今や東亞建設の時代に遭遇し、復興と新施設が招來されつつある。一般民船の就船は勿論、事變前にも増して開拓されて行く內河汽船航路、新らしく組織された輸送船團、機械化し曳航による輸送能率の増强等が華北交通の手に依つて實現されて來たが、將來更に建設總署などの連繋による日本的技術指導の下になされるであらう處の退廢水路の復舊改善、或は又華北交通の綜合的な運營といふ理想形態の運用に依つてのみ可能である處の鐵路及自動車の車輪——陸上交通とこの內陸水運との統一的發展策が、冀東の持つ地理的特殊性に對して採る形式こそ、注目さるべき、興味ある問題であらねばならぬ。（筆者は華北交通資業局員）

謙受益

石敢當

支那人の「萬事不徹底主義」は前に書いたが、それと關聯する處世哲學(?)として「謙」の問題をもう一度語つてみたい。

謙は謙讓の謙と同字であるが、普通日本で考へられてゐる謙讓或は謙遜といふ場合の、道德的な「へりくだる」といふ意味とは違ふのである。無論違はない場合もあるにはあるが、今日支那人大衆がこの字に對して持つところの觀念は決して日本人の考へるやうな道德的なものではない。端的に言へばこれは利害の打算から來た處世上の心得である。結果に於て或は道德の期待する所と同じものになるかも知れないが、出發點はあくまでも個人の利益といふことである。即ち「滿招損、謙受益」の思想である。「滿」は「いつぱい」であり「充分」である。つまり徹底することになる。「謙」は「滿に至らぬ」こと即ち「餘地を殘す」ことであり、つまり徹底しないことになる。この處世訓の意味は「ものごとは、いつぱいのところまで行くと損をする、いい加減なところで止めて置くのが得だ」といふことである。或は儒教の說く「中庸」も同じ意味であるかも知れない。商賣で言へば、儲かるからといつて調子に乘つて餘り手を擴げると思はぬ處から破綻ができるから、ほどほどにやれといふことになる。支那人に醉つぱらひが少いのは、酒呑みが少いからではない。酒を呑んでも「滿」に至らずして「謙」なるが故にである。若し醉つぱらつても損をすることが少しも無いならば、彼等と雖も敢て醉つぱらひを辭するものではあるまい。穿つた觀かたをすれば、謙讓といふことも、他人に對する「禮」であるよりもその方が自分のために都合が好いといふ意味が―支那では―强いのではないかと思はれる。要するにこれは古い歷史を有する支那人が、彼等の社會生活に於ける經驗の蓄積から歸納して得た所の處世哲學である。この哲學は前にも述べたやうに社會生活に於ては、たしかに人生の葛藤を少くしようとする目的に合致してゐて妥當なものであるが、物と場合を考へないで、萬事にこれを適用するので、當今の世界に處するためには、不徹底がもたらす立ち遲れとなり、歐米の科學文明に壓倒されるのである。魯迅はこれをマーマーフウフウ(當て字は馬々虎々、或は魯迅によれば糢々糊々)つまり「ものごとをいい加減にゴマカす」ことに、歸してゐるが、筆者はむしろ「滿招損、謙受益」の處世訓の誤まつた適用に歸したい。

この思想から來たもう一つの處世訓に「逢人只說三分話」といふのがある。これは「他人に對して話をするときには十のものは三の程度までしか言つてはならぬ」といふ意味である。つまり心の中に思つてゐることを全部洗ひざらしにぶちまけてはいけないといふことになる。この場合の人即ち他人は大體世間の人であつて、家族や極く親しい友人は別であるが、大家族主義の支那では兄弟の配偶者及それより緣の遠い者はもう他人である。これも消極的な自衞的「謙受益」の思想の現れであつて、日本人の心得としては、支那人の一應の話を直ぐにそのまま眞に受けてはならないと云ふことである。彼等のほんたうの心は一應の話だけでは判らないといふことである。それを簡單に彼等が「噓を言ふ」と思つてはならない。それだけ要愼深いのだといふ理解を以て對應すべきである。

(筆者は華北交通資業局參與)

柳瀨正夢畫

同蒲線から嵐縣へ

關　公平

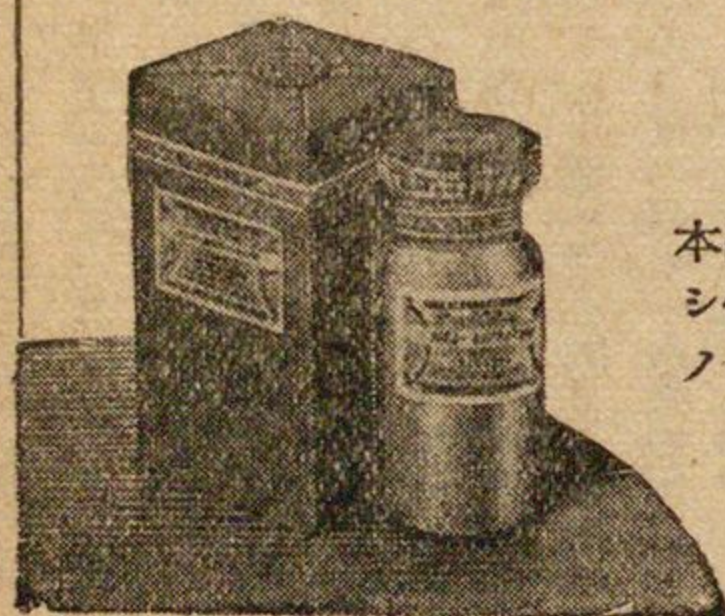
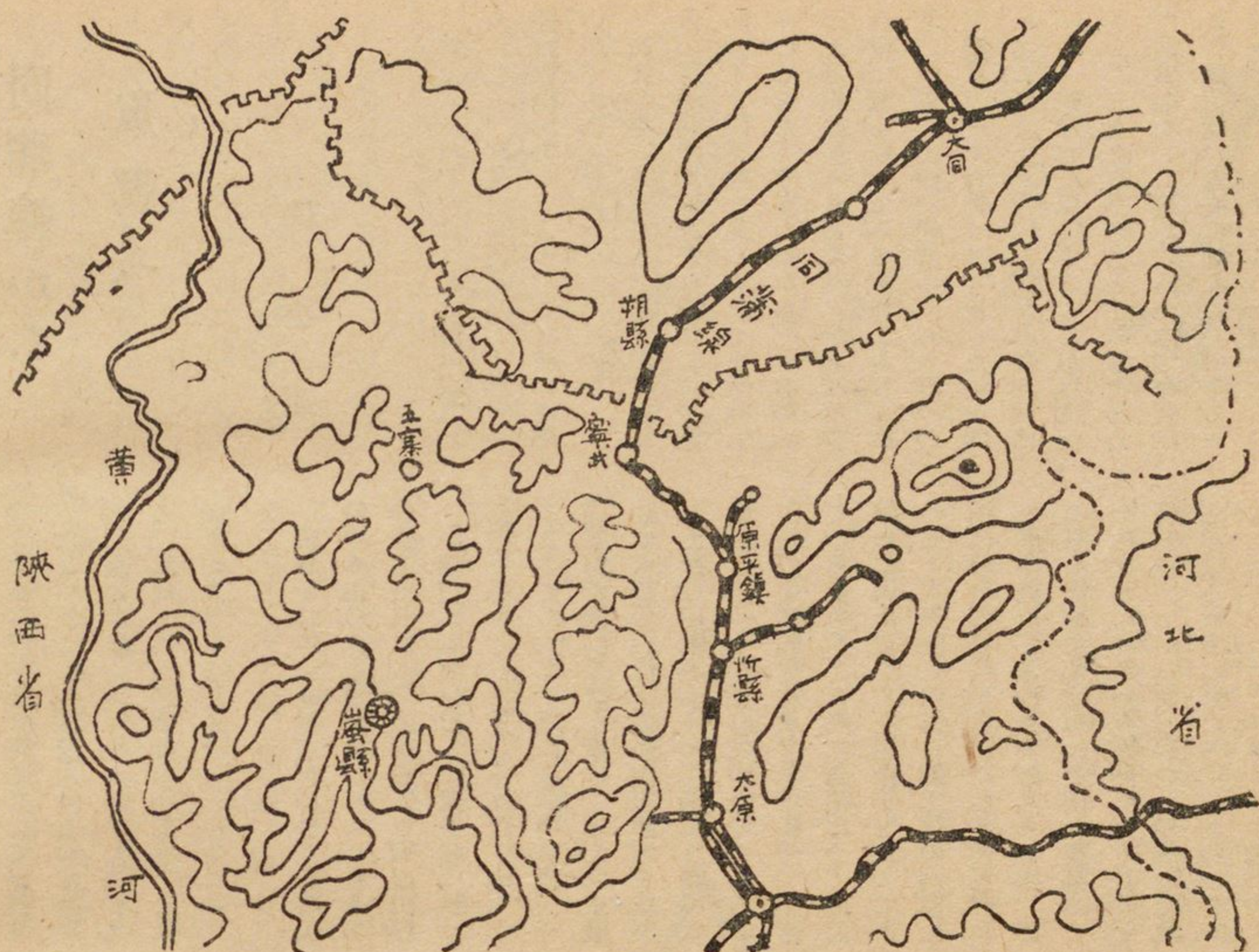
旅は人それぞれの天分に應じて凡は凡らしく、非凡なら非凡らしく如實の體驗收穫があるところ、これ旅の有難い所であると思ふ。

私は今年二月三月と二箇月間、新民會の華北共產地區調查に參加して今更の如く百聞不如一見の有難さを玩味したのである。今度の旅がかくも有難かつた理由は種々あるが私が華北政務委員會に職を奉じてゐる關係上かねて河北、山東、山西、河南のうち一縣づつ三箇月、一年計畫で見て步きたいと考へてゐたことが今回二箇月の短期間に一先づ綜合的に視察することが出來たと云ふことも有難いことであり、また以前素通りして讀んでゐた本で今度の旅行歸來後、も一度讀み直してみると解らん所だらけであるのも旅の尊い經驗であるし、この外種々效果はあつたのであるが、今度山西の調查で最初の豫定地區潞安が急に變更されて嵐縣地方になつたことも私個人にとつては非常に思出の深い調查行となつたのである。私はこの山西旅行の一二をここに誌してみようと思ふ。

×　　×

昭和十二年十一月三日の午前三時頃當時大每の北京特派員であつた私はT參謀とただ二人、山西省忻口鎭の山嶽上の洞窟から匍ひ出して總退却に移つた敵を追擊すべく足さぐりに下山してゐるのであつた。時に明治の佳節。一箇月餘頑强に抵抗し續けてゐた北支戰線でも珍しい忻口鎭の山嶽陣地を放棄した敵は同蒲線沿ひに雪崩をうつて太原へ太原へと總崩れだつたのである。山麓でT參謀は乘馬、私は徒步、太原での再會を約して私は急追につぐ急追擊の部隊に混つて一路南下したのであつた。T參謀との忻口鎭山頂の洞窟生活は場所が場所だけに、時が時だけに一層印象的であつたのであらうが、敵の亂射亂擊する砲彈は全山を震撼させそれと共にバラバラ窟內に降り注ぐ土粉を浴びながら話し合つた參謀の氣魄と風貌とは更に忘れることが出來ないものであつた。同參謀はその後各所に轉戰しながら奇妙に傷もせず今もなほ重要ポストに在つてその全靈を大陸建設に打ち込んでゐるのである。兎に角三日の午后、私は漸く戰車隊の自動車に便乘して忻縣城に迫つたのであつたが敵は城內から銃砲火を盛に射つて來るので吾等の車は城外に野宿、寒さは寒し終夜車內でぶるぶる震へてゐたのであつた。今度忻縣に行つて先づ目についたのは舊の如き城壁であつたが、驛に降りた時には、往時驛構內に四十名位の重傷兵が收容されたまま取殘されてをり、血糊の中に水を求めてゐたあの悽慘な有樣は勿論何處にも見出されず、末期の水を汲んでやつた給水タンクのみが當時のままに在るのであつた。そして前には入らなかつた城內に今度は三泊までして心ゆくまで見物することも出來たのであつた。

×　　×

五日太原城北郊に迫つた先鋒部隊は本隊の到着を待ち六、七の兩日軍使を出して平和裡に太原城開門を勸告したのであつたが、T參謀らについて私は二日軍使？　の役を勤めそして二度ともひどく射たれたこと、八日遂に斷乎太原城の總攻擊となり、大北門の炎上突擊路の開鑿、九日終日掃蕩、十日未明入城等々三日から十日まで忻口鎭から太原城まで同蒲沿線に展開された戰

蹟を今回、逆に南から北に四年振りで弔ふことが出來たのは私として何よりの本懐達成であつた。

×　×

忻縣で下車した調査班一行は呂梁山脈を横斷して西方嵐縣に勇躍したのであつた。途中北陸、中村、興亞の三大峠があり聞きしに勝る峻嶮、牧馬河、汾河の河床を西行する車の動搖は並大抵でなかつた。忻縣を出て始めての峠北陸峠に差しかかる少し手前で突如八路の便衣隊から猛射を受けた。右車側二三尺の畑に土煙をあげて飛び來る彈に吾等はあわてて下車したのであつたがわが勇士はすでに散開を始めてゐた。約二時間交戰の後われ等の車は峠を越して西麓に降りたのであつたがここで重傷を負つて倒れてゐる一勇士に出逢つたのである。同勇士は他の同僚尖兵と峠の頂上で見張中約三百五十の八路軍が移動中なるに遭遇し激戰の後これを擊退したのである。先に峠の東麓で敵が迎へ討つて來たのはこの本隊を通過さすための牽制射擊であつたと察せられたのである。歸途、同所に木の香も新らしい川崎上等兵戰死の墓標が樹てられてあるのを見た時一行は肅然たる氣持で同勇士の冥福を祈つたのである。

靜樂縣に一泊、ついで嵐縣に赴いたのであるが調査の本據は縣城の南約四十キロ、東村鎭に置いたのである。嵐縣の西隣は賀龍の本據地域である興縣であり、黄河は興縣の西涯を洗つて陝西省と境してゐる。

東村鎭の調査中一日、東土峪といふ小部落へ調査に出かけたのであつたが村の子供らから種々話を聞くことが出來た。その子供の中で十四歳の悧口さうな村童の口から朱德、毛澤東、周恩來、彭德懷、林彪、さてはスターリンの名まで飛び出すのには一寸驚かされた。子供等は、賀龍が嵐縣城内で黒い馬に乘つてゐるのを見た、黒龍は胖子(パンズ)と、でつぷり太つた恰好などをしてみせるのであつた。黒龍こと賀龍は子供等には中々愛嬌を振りまくらしくこれ等の子供も玩具を貰つたことがあると云ひ添へるのであつた。蔣介石と閻錫山と賀龍とこの三人のうちで誰が一番偉いのかと問へば第一が蔣介石、老閻第二と答へるのも同樣であつた。これ等はここらの山西兒童の心理を言ひ現してゐるものがあると思はれた。

×　×

以上本文は私個人の感慨、思出のみに終始してしまつたが、會調査報告は資料の整理と相俟つて目下着々進行中である。（筆者は新民會秘書室員）

晋南の街道に拾ふ

板屋　猛

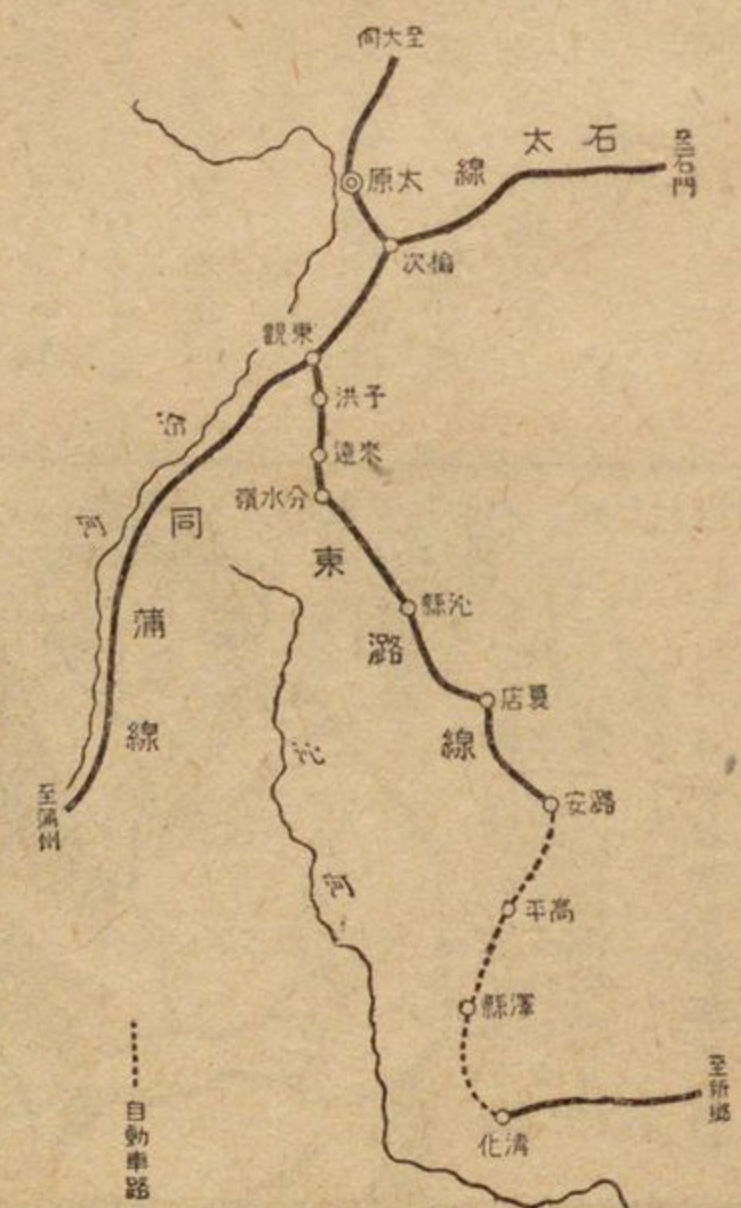
ひとロに「黄土」と言ふが、これにはいろんな種類があつて、色の點から大きく分ければ、いはゆる黄色の黄土、褐色を帶びたもの、紅味がちのもの、と三種になるといふ。山西の北部から中部にかけては黄色、中部から南部へかけては、褐色と紅色のものが散在する、とクレツシイの書物にも書いてある。なるほど、太原から東潞線を南下して潞安に近づくにつれて土の色が目立つて褐色となり、またところどころ紅紫に見える凄いやうな色彩の土壤が車窓からも指摘されるのである。

沁縣、潞安、高平附近のやうに廣い盆地をなしてゐる處では耕地の區分は平原地方と大差なく一般に長方形で相當に廣いやうである。ところが一度山岳地帶に入ると、山の斜面に小石を積上げて、實に細かく巧みに段々畠を作り、表土のある限り山頂まで悉く之を利用して餘すところがない。殊に澤州から清化鎭に通ずる沿道の如きは、突兀たる岩山の谷間谷間に撒布されてゐる僅かばかりの土壤の上に、人間が群り食つてゐる姿がはつきり判るほど、一尺の空地、一塊の土も見逃さず耕してゐる。こんなにまでしてこの山奥に住まねばならぬのかと不思議な氣持にかられるほどであり人と土との結びつきの深さを思ひ知らされるのである。

潞安、澤州附近は割合に人口密度が高く、山西省の西北部が一方支里當り四一一〇人であるのに對し七一五三人となつてゐる。その反面、一戸當りの耕地面積は山西全省の平均が三二畝餘であるのに對し二〇畝、處によつては僅かに一五畝前後といふのもある。しかも一戸當りの人口はやはり五人平均となつてゐるから、如何にこの附近の農民が零細な生計であるかが窺へるのである。ただ他地方に較べて自作農の割合が多いこと、地代とその收納制度が酷烈でないこと、雨量が多いことなど、惠まれた點と言ひ得る。

この附近はいはゆる多麥地帶であつて普通二年三作。役畜の不足してゐることは北支農村一般と同様で、この爲の勞力と肥料の不足とを作物の巧みな組合せによつて補つてゐるのである。

多作の大宗は小麥、夏作は粟が最も多く玉蜀黍、高粱、豆類がこれに次いでゐる。特用作物としては大麻、亞麻、莨麻、煙草などであるが、中でも大麻はこの附近の特産物であつて省外にも多量に輸出される。眞白に晒した麻の束を一輪車や驢馬の背に載せて運び出してゐる風景は確かにこの邊りの特色をなしてゐる。昭和十三年の潞安作戰當時、退藏されてゐた多量の小麥、粟等が潞安附近から發見されたことは有名であるが、この地區の農産物が一時喧傳されたほどではないにしろ、相當の潜勢力を持つてゐることは最近の調査でも認められてゐる。

地下資源では何といつても石炭と鐵鑛、殊に石炭はちよつと見當がつかぬほどだと言ふ人もある。「土民は自家の庭先を掃いて石炭を取つてゐる……」といふ眞僞は知らないが、車窓からも至る處に採掘の跡が見られるし東周炭礦などのやうに可成り大がかりに採掘してゐる現場もあつて、その豐富さはゆきずりの素人眼にもよく判る。

殊に興味を惹かれたのは、澤州城外の馬匠村その他二、三の部落で見た民家の土塀が全部熔鐵用の坩堝で積上げてあることであり、部落の外れには鑛滓が小山を成してゐることであつた。兵隊さんに聞くと、澤州附近の部落には鐵器を造る者が多いさうである。恐らく近所の山から鐵鑛石と石炭とを掻き集めてきて、土法で鑄物を作るのに違ひない。その坩堝の廢物で塀を作つてゐるのは、却々面白いし、言ふまでもなく鐵と石炭との豐富さを物語るものである。また潞安附近から出る陶器に眞黑い鐵の釉藥を使つたものがあるのは、やはり地方色といへよう。そして高麗焼に似たその焼物は、恐ろしく荒つぽい粗朴さを湛へてゐた。

文明に遠ざかるほど生活と自然との結びつきが緊密であるのは當然である

が、山西もこの山奥に來ると土に卽した人間の生活が實によく判る。家屋に例をとると、黄土の發達した北部地方では穴居が多く家屋は壁も天井も泥一色であるが潞安、高平附近では木材をふんだんに使つてゐて屋根も瓦葺きの長廂が普通であり、澤州から淸化鎭にかけての山岳地帶では殆ど土も木も使はない石造りであつて、遠目には古城郭のやうに見える。この三種の形式が地方別に劃然としてゐるのである。次に車であるが、山道が多く平地でも道路が悪いせゐか、車軸は割合に長くて車輪が甚だしく小さい。處によつて多少の差はあるが車輪の直徑は一尺五寸に足りない。そして、泥濘に對する用意なのか、車輪には輻がなくて、一枚の圓板のやうに造られてゐるものが多い。この玩具のやうな車を曳いてゐると、驢馬さへも大きく見えるほどであり、圖體の大きい黄牛とは著しく不釣合で可笑しい。恐らく昔の姿そのままを傳へてゐるのであらう。

粗衣粗食で聞える山西のうちでも特にこの邊りの生活は酷いやうである。泥に汚れた綿服も、鞋もボロボロに破れ、それに丹念にツギを當ててゐるのは山西人の細かさが判るやうである。しかし着物はボロでも子供たちの首には麒麟送子などのお守りがかけてあるし、吉祥の蝙蝠の模様をつけた胸掛けや虎の縫ひとりの鞋や帽子など親心には變りはない。却つてかうした慣習は廢れずに色濃ゆく殘つてゐる。

潞安の城内で年輩の女達の中に頭に黑布を被つた者が多いのを見て黃塵がひどいせゐだらうと思つたが、これは、全部天主教徒だと聞いて驚いた。尤も東潞沿線から澤州方面にかけて隨處に教會堂が聳立してゐるし、信教の調査書を見ても佛教や道教に匹敵するほどの優勢さである。殊に潞安の東門外に在るオランダ教會の豪壯さと内部の充實ぶりは一驚に値する。廣い一廓の中に、この附近から出土した、獸骨や陶瓷、或は動植物の標本を陳列した參考室があり、小學校、盲啞學校、農園等もある。筆者が訪ねた折は偶〻彌撒(みさ)の時間であつたが、眼も綾な絢爛たる禮拜堂は四、五百人もの男女の信者に滿たされてゐて敬虔な讃美歌を唱つてゐた。之等の外國教會は大抵明末淸初頃河南省を經て入込んできたものが多いといはれてゐる。既にこの邊境に二、三百年も腰も据ゑてゐるわけで、神父等すつかり支那人になりきつた生活ぶりである。彼等の撓まざる精神と生活の根强さにはいつもながら頭が下る。

太原方面に出るにも、河南へ下るにも僅かに河谷に道を求めるより外になく、雨期には河水の氾濫と泥濘によつて唯一の交通路も杜絶えがちである。車を利用し得る範圍も狹いので、今日なほ人と牛馬の背によつて大部分の物資が運ばれてゐるのである。潞安から澤州を經て淸化鎭に出る道筋は、この點、昔さながらの道中風景を繰り展げてゐる。南に向ふものは、特産の麻を振合けにした驢馬の一群、或は栗、野菜、陶器、鐵器、などを天秤棒に擔いでゆく數十名の縦列、その間を一輪車と牛車とが鈴音も高く諸〻の土産品を積んで練り歩いていくのである。これに對して、淸化鎭方面から北上してくるものは、第一が南方の香高い竹細工、ついで花模様の綿布、マッチ、砂糖、雜貨類といふ文明の産物である。それらの織るが如き街道筋は、そのまま物資交流の粗朴な繪卷なのである。そして要所要所には極めて原始的な交易市場が立つのである。現在、この潞安から高平、澤州、淸化鎭を結ぶ道路には華北交通の自動車があらゆる困難に堪へつつ運轉せられてゐる。新時代はこの自動車と開通した東潞線によつて、急速に晉南地區に浸透していくのである。（筆者は華北交通資業局員）

可園雜記

加藤新吉

一家眷族のうち人間以外のものは今のところ、猫一匹、セパード牝一頭に仔五頭、小さいものでは獨逸カナリヤ一羽、金魚と目高數十尾。

猫は奉天の產、北京への轉勤に際して、放つたらかすのもかあいさうだと籠に入れてぶらさげてきた。そのかみの滿洲族を偲ばせる逞ましい牡猫、可園に來るなり土壁傳ひに遠征を始め、幾何もなくそこらぢゆうの北京猫族を征服した。子孫四隣に繁昌してゐるとの噂である。

セパードはここに來て二頭目。最初のも牝で名はフヂ、一年程の間に十數人を嚙んだのには困つたが、飼主には忠實從順を極めた。特に私の住居にしてゐる一棟は必死に守つた。使用人でも挨拶なしにそこへ入らうとすると必ず吠えられた。妻の行くところには影の如く隨いて行つた。こつそり外出しようとすると壁を跳び超えて後を追つた。他家では妻の草履の上に坐つて待つてゐた。とても人懐こい犬であつた。妻などどんなにかあいがつても足りない風に見えた。ところが、夏季一月餘も私達が歸省してゐる間、世話が屆かず、病氣して衰弱して終にフヰラリアで死んだ。隨分手當をしたが及ばなかつた。妻は久しくふさぎ込んでゐた。

今の犬の名はフリガー、全身漆黑、見たところ申分のない犬であるが、餘程鷹揚なたちと見えて、全く吠えず嚙まず、かあいがつても餘り喜びもせずその癖誰にでも尾をふる。フヂに較べて頗るものたりない。犬としても少し足りないのではないかと思つた位である。フヂには恐をなしてゐた阿媽までこれを馬鹿扱にして犬を犬とも思はぬ態度を示した。ところが、四月一日の未明、九頭の仔を生むと同時に、フリガーは母犬として躍如たる面目を發揮し出した。

牡は氣象の強い犬を撰んだ。名はペロ、黒褐。仔はそれで六頭まで褐色を雜へ、きかぬ氣の奴が多い。名にK字を冠する約束の由。生後間もなく斃れた一頭の牡を除いて、牡はクラウス、クロウド、カナル、牝はカナ、カーリン、カルラ、クララ、クレタと名づけた。順次知人に分けて最後にクラウスとカナが家に殘る豫定。

母としてのフリガーは全く至れり盡せりである。母性とはかくの如きものかと淚の出る程思ひ知らされる。嘗めてなめて嘗めつくす、が、決して甘いばかりではない。仔がよちよち小舍を匍ひ出す頃から訓練を始めて日に增し嚴格になり猛烈になる。生後五十五日もう殆ど乳はのませない。よく叱る。一度は啞かと思はれ、餌をとりに來た烏を吠えたのでやつとその疑を解かれた默り屋が、仔には嚴しく吠えて叱るのである。

このところ院子は仔犬の遊戲場であり修練道場である。仔は母に從つて步く、走る、跳ぶ、土を掘る。母は仔を前肢で押し倒す、大口を開いて仔の頭や喉や肢を嚙む、院子一ぱいに逐ひまはす。連日の猛訓練である。母犬が指導しない時には仔犬がお互にもみ合つてゐる。これが切磋琢磨だと思ふ。おかげで草花はすつかり踏まれ折られ嚙切られて見るかげもなくなつたが、仔犬はすくすくと育つてゐる。それを見るにつけて、早くに他所へあげた仔犬が、かうした十分な訓練を受けなかつたことを、かあいさうだと思ふのである。

北支暢談

北支の地方病

支那における地方病、風土病の數は甚だ多い。保健衞生の設備の整つてゐるところといへば僅に支那本土の海岸地帶の一部にすぎず、一般にその設備は極めて幼稚である。日本內地ではほとんどその跡を斷つたところのコレラの樣な急性傳染病も年々猖獗を極めて居り、また天然痘の如きもほとんど一年中、散在的に常在してゐると云ふ狀態にある。

現在その本體が明かにされてゐる地方病を擧げて見ても地方病性甲狀腺腫マラリア、アミーバ赤痢、カラ・アザール、肝臟ヂストマ病等があり、その他下疳潰瘍、パパタッチ病のやうな原因不明のものも少くない。

地方病性甲狀腺腫といふのは萬里の長城線に沿ふ高原地帶に多く、北は滿洲の熱河省全域に亙り、南は河北省の北部一帶をその蔓延地帶と看做されてゐるもので、この病氣は多く五、六歲頃に罹り、頸部の甲狀線が肥大して瘤となり、春期發動期に至つて最大となる。性來怒癖のために膨出すると傳へられてゐる。

カラ・アザールといふのは印度の土語で黑疫といふ意味で、支那では黑熱病といはれてゐる。この病氣に罹ると肝臟が大きくなり、貧血を起し、腹ばかり膨隆して皮膚が黑くなる。京山線及山東省に亙つて廣く分布し、滿洲の奉山線及び南方大連方面を連ぬる沿岸と相對する遼東灣に面する一帶に多く存在する。この病氣は北支によく見るいぶまの一種——白蛉子によつて媒介されると云はれてゐる。

その他ペスト、アミーバ赤痢、マラリア、チフス、コレラなどは北支に於ける一種の風土病であり、嚴重に警戒を要する。又山東省の癩病、流行性黃疸、その土地その土地に發生する特殊不明の熱病など、要するに北支は疾病の巢窟であるかの觀がある。

この廣大なる地域に跨つて少數の都市を除くと、未だ文化はひらけず、住民の衞生思想は原始的であつて種々の風土病なり傳染病なりが脅威を逞しうして年々幾多の民衆がその犧牲となつてゐるのである。

一日も早く、之等の疾病の本體を探り、北支の民衆に溫い救ひの手を伸ばしてやるのが大陸に進出しつつある日本の科學戰士に課せられた一大重要使命なのである。

八千箇村の愛路村を組織し、三千萬人の農民の指導に當つてゐる華北交通會社では沿線の各所に鐵路醫院、診療所などを設置し、日支十餘萬社員の診療に當る傍らこれら一般住民に對しては巡回施療班を廻して近代醫學の恩惠に浴せしめてゐる。また同社には保健科學研究所があつて、豫防醫學の立場から地方病を研究し豫防劑を創製するなど未開拓のこの方面に大きな力を注いでゐる。

華僑

華僑とは國外に出稼ぎする中國人のことで、世界各地に散在し、その數八百萬人と云はれてゐるがこのうち六百萬人以上は所謂南洋華僑によつて占められてゐる。

彼等は鄕里を棄てて異鄕に去つた人人であるため、その血液の中には革命の焰が燃えやすいのか、近世支那革命史上に演じた役割は大きい。

滅滿興漢の旗を揭げて打倒淸朝の革命運動を起した鄭成功、太平天國の亂を起した洪秀全、近くは國民革命の父と仰がれる孫文など申し合せたやうにほとんど華僑社會からの援助を受けてゐたし、又國民革命以後には支那の政治、經濟文化の各分野に對して驚くほどの寄與をなしてゐる。

本國への送金は每年約二億元乃至三億元に上るといはれ、慢性入超國たる支那にとつては、まことに福の神であり、國民政府成立後引受けた公債だけでも相當の巨額に達してゐる。特に支那事變以來、彼等は多額の各種公債引受、抗日戰費の獻金等に應じ、蔣介石政權の指導下に排日ボイコットに狂奔し、遂には日貨排斥テロ團の橫行となり、政治的抵抗を示した。將來ともその動向には注目を要する。

升官發財とインテリ

支那ではよく「升官發財」といはれるがこれは「役人になつて金をまうける」といふ意味で、役人になることは權力と財力を併せ得る萬人の理想的職業であつた。ところがこの役人になるには科擧（試驗）の階梯を經なければならない、そこで書物を讀み、學問を行つたのである。即ち科擧を及第したもの、及び努力してゐるもの、或は幾度か試驗をうけて遂に及第せず野にある不遇の書生——これらをひつくるめたものが讀者階級であり、インテリであつた。つまり升官發財を目的として支那の知識階級は構成され

たとも云へるのである。

そのため彼等は喪家の狗の如しと云はれる様に、統治者に對しては腰低く憐みを乞ふと云ふ態度である。幸ひ科擧にパスして役にありつけば、インテリにふさはしい學問の提唱をはじめるが、やがて彼等は發財のために民を搾取する。竹林の七賢人のやうに俗塵を離れ、世をすねて竹林の中の閑靜な住居に浮世ばなれの清談を樂しんだものや、官を離れ、貧しくも「道」を説いた高士、隱士に終始した人達もゐるにはゐるが大部分の連中は升官發財のこりこりであつた。肥沃な土地を有する中國が今日のやうな疲弊と不幸を招いたのもこのやうな無能貪慾な彼等が中國を統治し指導してゐた故にであらう。

升官發財への夢は民國になつても消えなかつたと見え、民國五年北京大學の校長として就任した蔡元培はその就任第一回演説に「科擧時代から傳統され來つた下劣な根性」として痛烈にこきおろし、大學の學生は學術の研究を以て天職とすることを説いてゐる。

公路

公路は、日本の國道に當るもので、一般には自動車道路として使はれてゐる。支那には昔から官路と呼ばれるものが發達してゐて「道は長安に通ず」などといはれたのであるが、今では荒廢したものが多く自動車道路としての使用も不可能になつてゐる。近代的な公路建設が旺盛となつたのは先づ國民政府成立後のことであり、一九二八年から一九三六年までの九年間に十五萬キロの建設を行つてゐる。

國民政府がこのやうに公路の建設に力を入れたのは勿論種々の動機と目的があつたのであるが、その中最も有力な理由をなしてゐるのは政治上及び軍事上の必要からである。滿洲事變は支那の國家主義を急激に高める作用をした。又一方南京政府の基礎が益々鞏固となり且つ一九三四年、長年江西省瑞金を中心として蟠居してゐた共產黨政府が西遷すると共に、南京政府による全國の中央化、近代的民族國家建設の叫びが熾烈となつて來た。この氣運を巧に捉へて全國を統一しようとして國民政府が取り上げたのが交通政策である。しかし支那の鐵道は各國の利權下にあり、內河水運は靑幇などの祕密結社の手にあるので、さうした繫累のない自動車道路の建設が第一に目をつけられたのである。

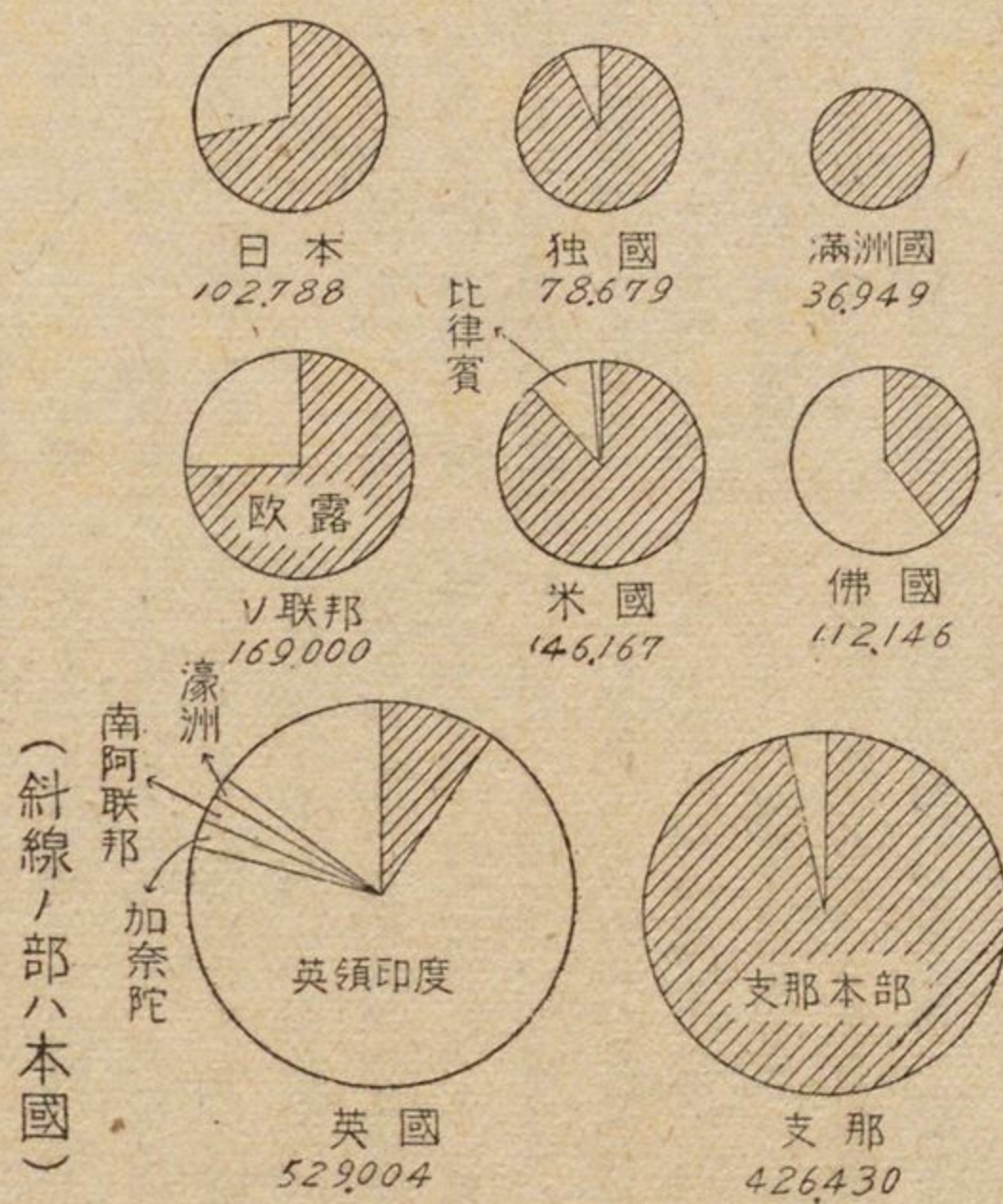
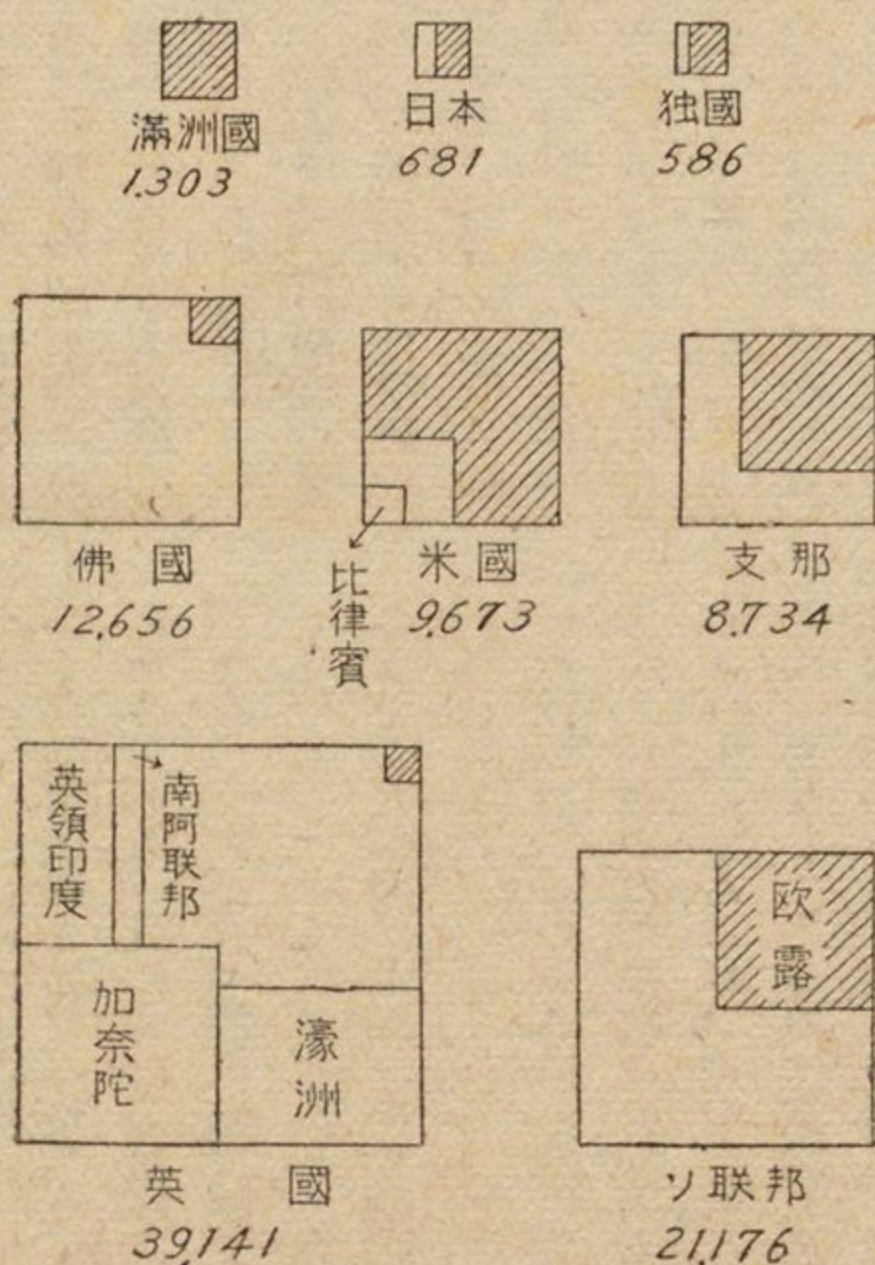
自動車道路は比較的短時日に且比較的安價に建設されることが出來、然も之によつて近代的交通の最低限度の必要が充たされる。國民政府が航空の發達と共に公路の發展に極力努力し來たのは實にかうした理由に基いたものである。卽ち、之によつて迅速に各邊疆の地方政權にまで中央の威令を及ぼすことが出來、全國中央化の氣運を一層促進することが出來ると考へたからである。

その後この公路建設の進行に從つて國民政府の意圖する中央集權化は目に見えて效果を現し、また鐵道に惠まれない奧地に對して始めて文化のいぶきを與へ、旅客の輸送と通信交通上の便利化によつて、支那各地間の文化の交流、國民大衆の國家主義的關心を急速に高めたのである。

事變直前における北支の公路建設は二萬三千キロ、自動車の運行されてゐたものは一萬四千キロを示してゐた。

事變後これらの路線に運轉されてゐた自動車は支那軍に徵發或は燒却せられ、公路も破壞せられたもの多く、支那側の自動車運行は全く不可能に陷つたのであるが、現在、北支の自動車事業は全く華北交通の經營下にあり、その營業キロも一萬三千キロを突破し、ほとんど戰前に近迫せる路線の開拓をなしてゐる。

支那の面積と人口

北支・蒙疆の統計 12

支那大陸はまことに廣大である。北は外蒙の沙漠地帯から南は常夏の地といふべき海南島にまでわたり、東は江南の沃野から西は西藏の重疊たる山脈地帯にいたるまでことごとくこれ支那の地である。

支那の總面積は八百七十三萬四千方キロ（そのうち北支は百一萬九千方キロ）日本內地面積三十八萬二千方キロの二十三倍にあたる。大英帝國、ソ聯、植民地を含むフランス、米國に劣るのみで世界第五位にある。

支那の國境は陸と海に分つことが出來る。陸地國境の總延長は一萬五千キロ、そのうち九千キロはソ聯邦と境を接してゐる。それから南へ延びて短いアフガニスタン國境があり、更に支那の南は印度と佛印に接してゐる。東は太平洋に面しその部分は黃海と東支那海と南支那海の三つの海から成り最後に北東において滿洲國に接してゐる。

支那の正確な人口は不明であるが、支那政府の推計數によると四億二千六百萬を示してゐる。支那の平均人口密度は比較的に低く一平方キロに四十九人である。しかしその人口分布は非常に不均等で新疆、內蒙古、西藏の如きは二人から六人であるに反して他の地方は世界で最も人口稠密な部類に屬する。河北省は百九十五人、山東省の如きは二百四十三人を示し、日本內地の人口密度の百八十七人を優に凌駕してゐる。

農業恐慌、飢饉、內戰、掠奪等の結果、最近四、五十年の間に北支から滿洲國へ移民した「過剩農民」の數は數百萬に上り、現在、滿洲への季節的勞働者——苦力の數は一年に百萬を超える。

支那本部の住民の大部分は漢民族であるが、內蒙古には蒙古族、回族、南西支那には苗、獞、浪速の三大種族、新疆省にはウイグル人、ツラン人、キルギス人、西部支那には西藏族、カルムイク人など種々雜多な民族が住んでゐる。

昭和十六年六月十五日印刷納本
昭和十六年七月一日發行

七月號
（每月一回一日發行）

編輯者 北京・華北交通株式會社資業局 加藤新吉
發行者 東京市麴町區三番町一 長谷川巳之吉
印刷者 小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社 大橋松雄
發行所 東京市麴町區三番町一 第一書房
振替東京 六四二一三番 六一四一五番
電話九段（33）三三四四番

一册定價 ㊅三十錢（郵送料一錢五厘）
一ケ年分 金三圓六十錢

廣告取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所 一新社
電話土佐堀九三九

第一書房戰時體制版 各七十八錢

文學博士 佐佐木信綱謹註

明治天皇御集謹解

二刷三萬部增刷出來!!

全卷一千七百八十七首!! 御集の全謹解茲に初めて成る!!

東京女子高等師範學校々長 下村壽一

天皇の御聖德，御鴻業を偲び奉り，敷島の道に依りて國民の情操を涵養する根本聖典として 各學校は固より、家々戸々に備へて朝夕拜誦すべきものと存じ候。佐佐木博士の御骨折に對し深く敬意を表し候

杉浦重剛謹撰

選集 倫理御進講草案

初刷以來版を重ねること十五度三十萬部突破。

法學博士 大川周明著

新訂 日本二千六百年史

二十四刷二萬部增刷出來、三十五萬八千部突破

文學博士 後藤末雄著

支那四千年史

品切れのところ五刷二萬部增刷出來。十一萬部

パアル・バック 新居格譯

大地

品切れの處 第三部二萬部增刷出來!!

愈々底知れぬ賣行!! 支那を知る唯一書として現地でも銃後でも益々白熱的に讀まれてゆく。第一部增刷忽ち品切れ。

NISSEN

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】

一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。

一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。

一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

適應

疥癬・頑癬・濕疹一切
白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰囊頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性及皮膚諸疾患

包裝

一〇瓦(瓶入)
二五瓦(〃)
一〇〇瓦(〃)
五〇〇瓦(罐入)
一〇〇〇瓦(〃)

製造發賣元 日本染料製造株式會社 大阪市此花區春日出町

一手販賣元 株式會社 稻畑商店 大阪市南區順慶町二丁目

日染

ムナバール

昭和十四年七月四日第三種郵便物認可　昭和十六年六月十五日印刷納本　昭和十六年七月一日發行（毎月一回一日發行）第二十六號

北文㊛　定價三十錢